

仮想デスクトップ接続方法

1、仮想デスクトップについて

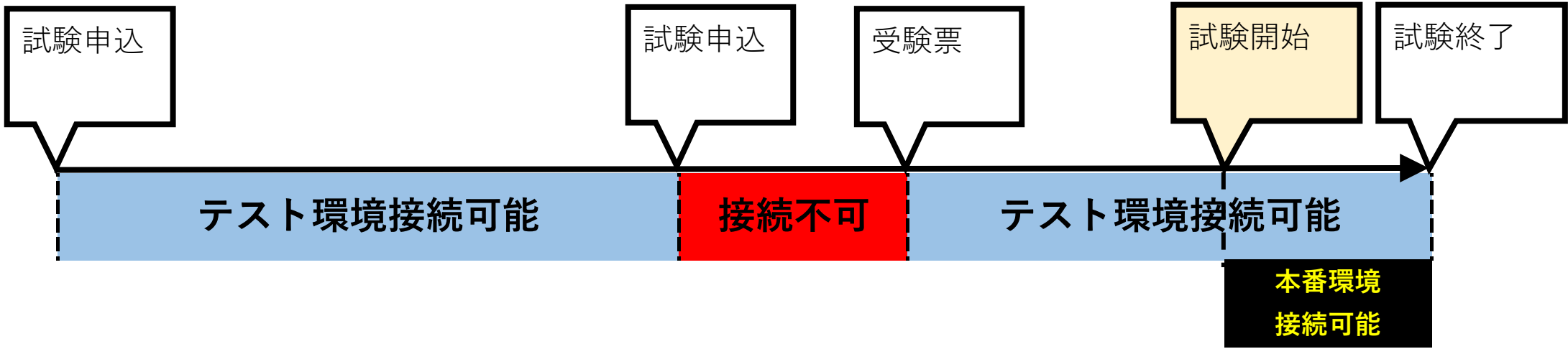
仮想デスクトップは以下2つの環境があります。

テスト環境・・・試験本番で接続可能かテストするための環境

本番環境・・・試験で実際に使用する環境

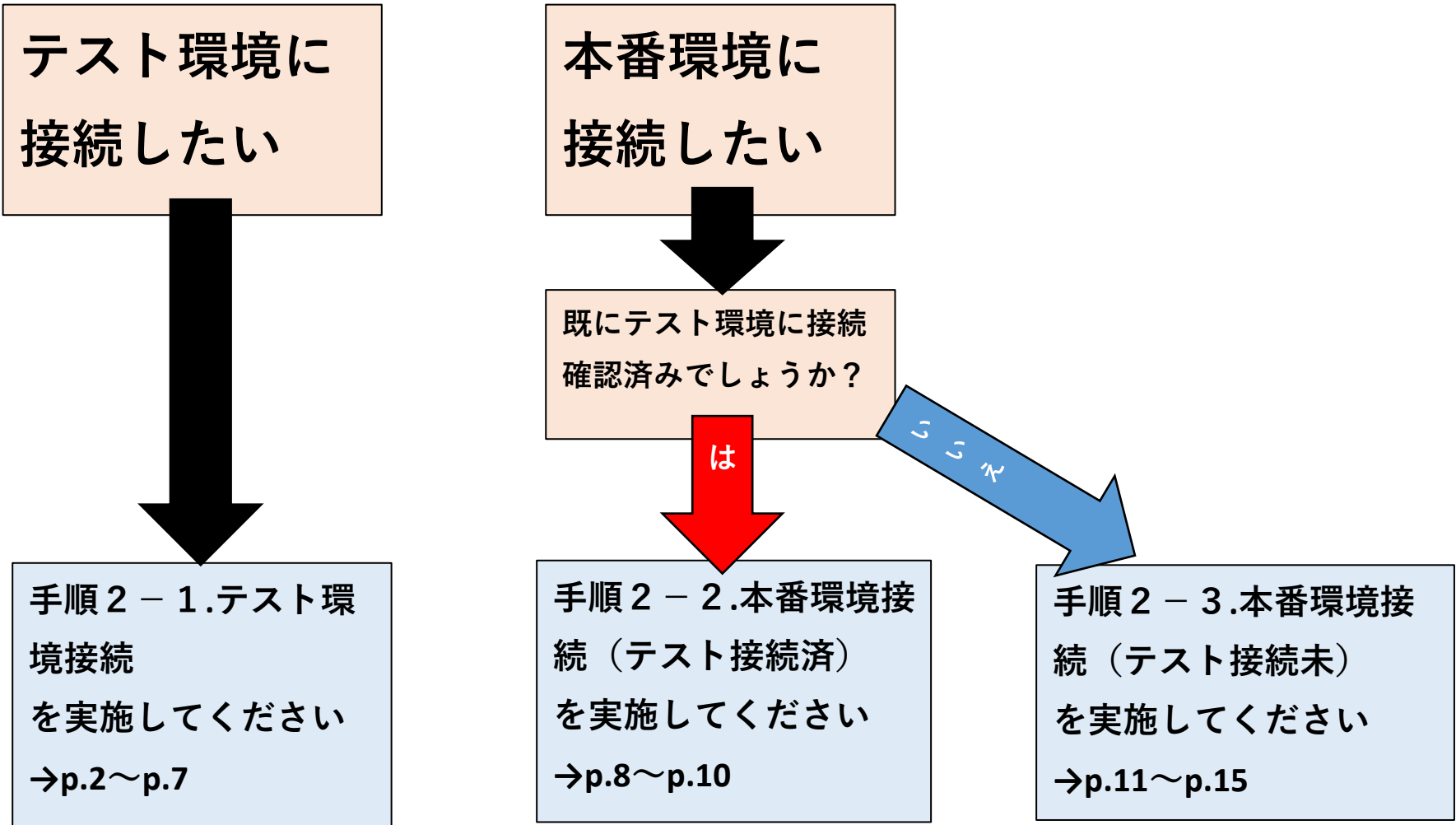
テスト環境の接続が確認できれば、本番環境でも接続可能です。

ご使用いただける期間は以下の通りとなります。



2、仮想デスクトップに接続

以下、フローを参照し、各接続手順をご確認ください。



手順 2 – 1.テスト環境接続

■証明書のインポート

①サーバ証明書ファイルをダブルクリック→「証明書のインストール」をクリック

サーバ証明書：wa-assay.jpaneast.cloudapp.azure.com.cer



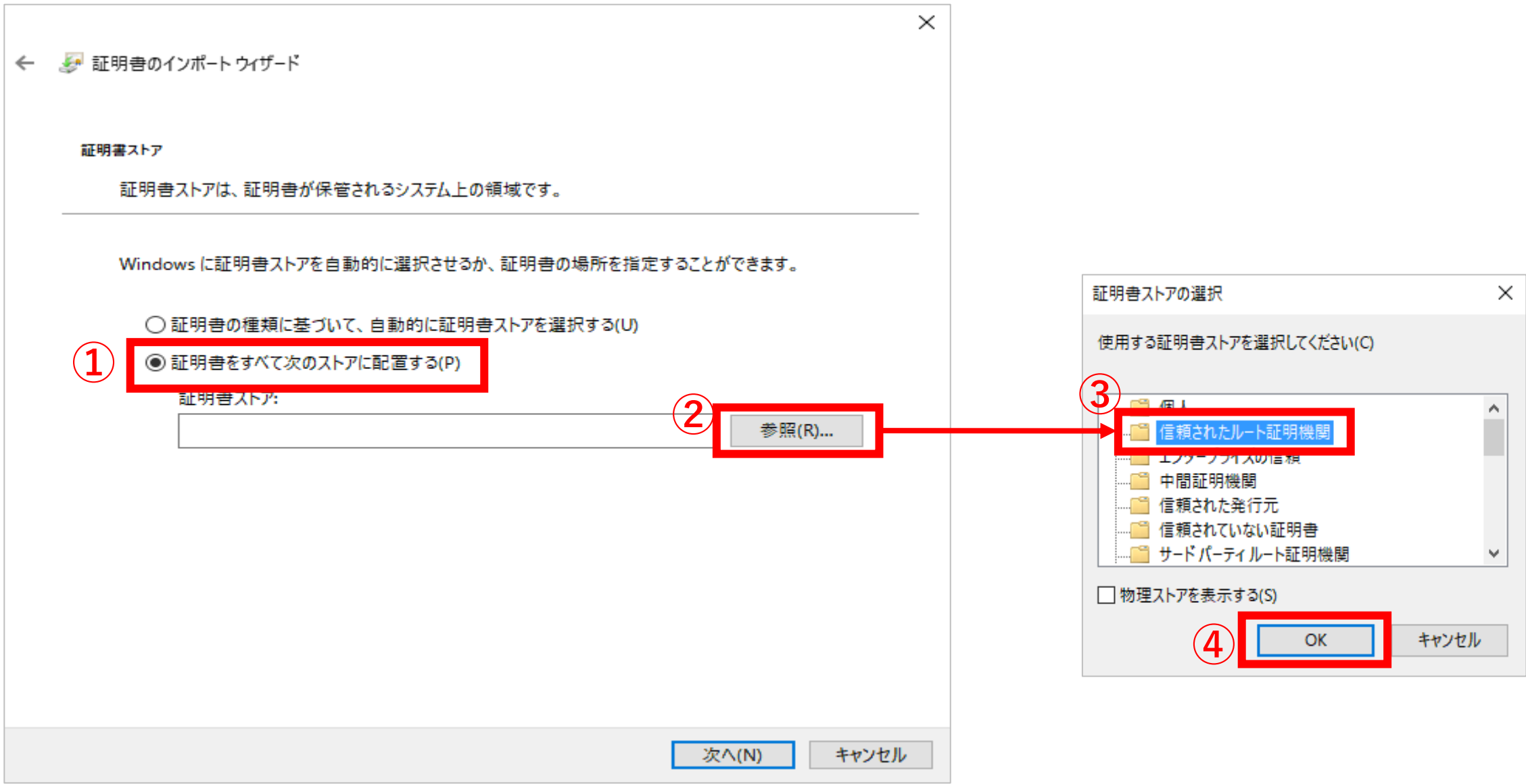
②保存場所を選択してください。

「ローカルコンピュータ」にチェック→「次へ」をクリック

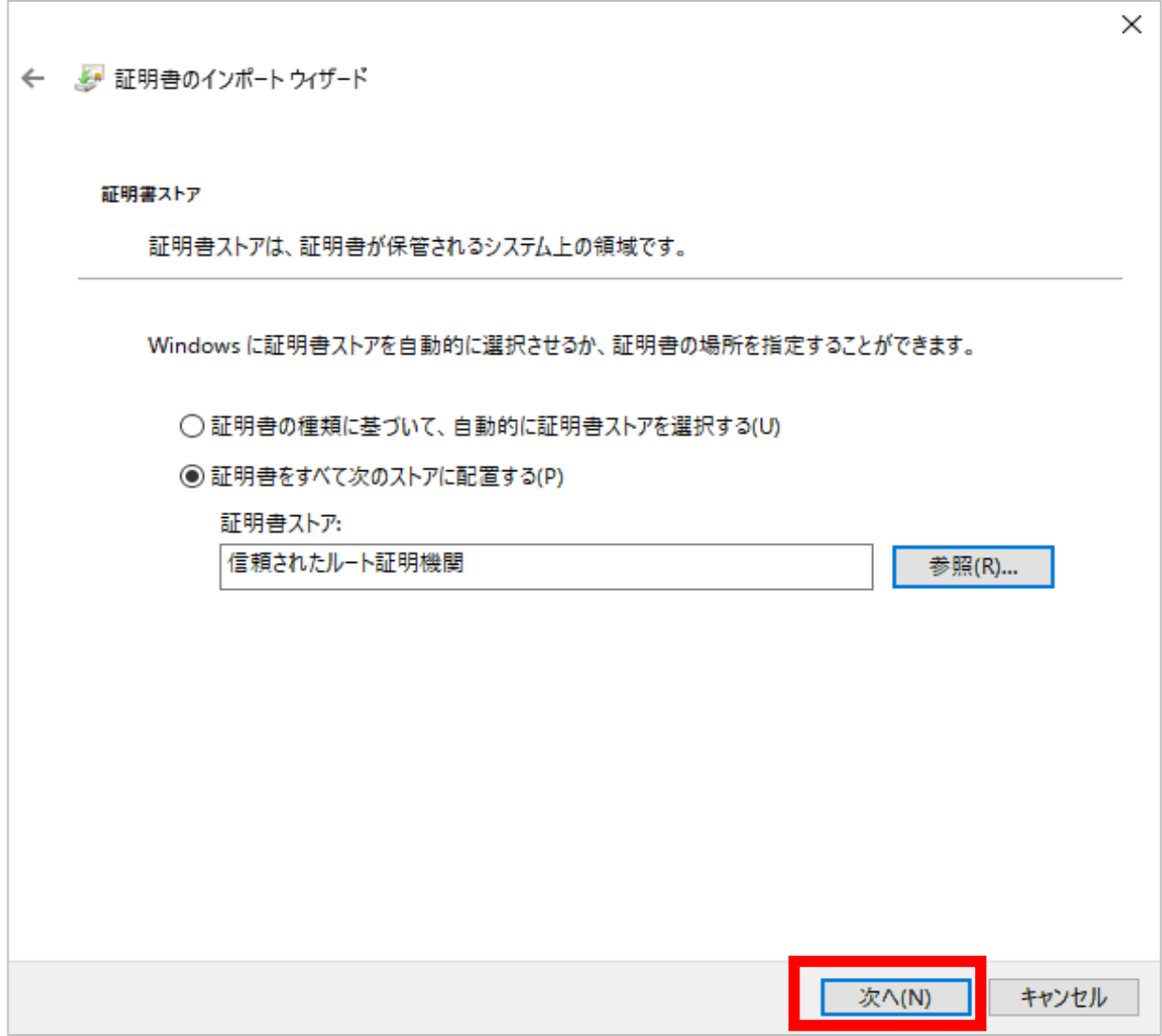


③証明書配置先を選択してください。

「証明書をすべて次のストアに配置する」にチェック→「参照」をクリック → 証明書ストア：「信頼されたルート証明機関」を選択→「OK」をクリック

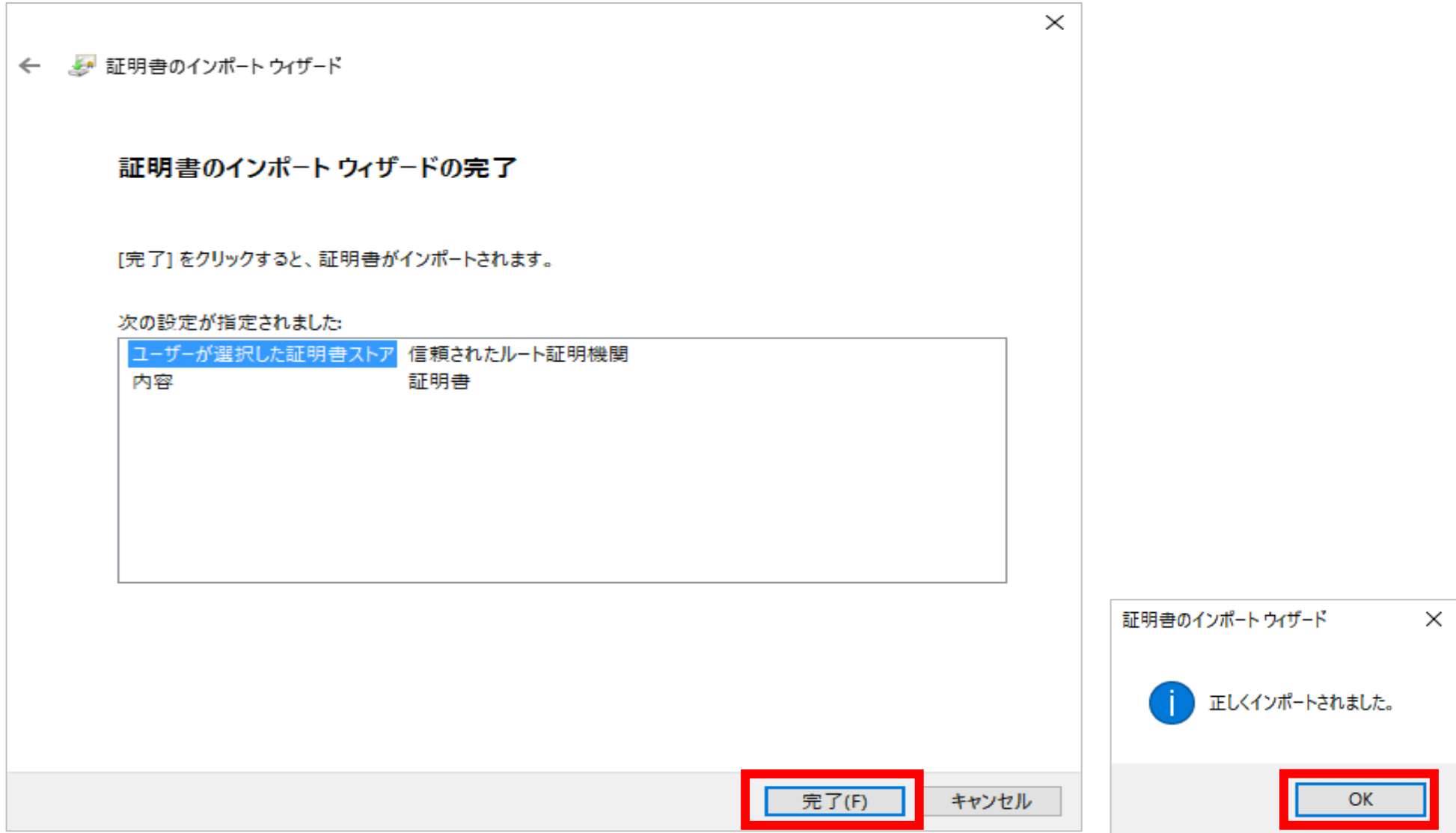


「次へ」をクリックでインストールを実施してください。



④証明書をインポートしてください。

「完了」をクリック→「正しくインポートされました。」が表示されればOKです。

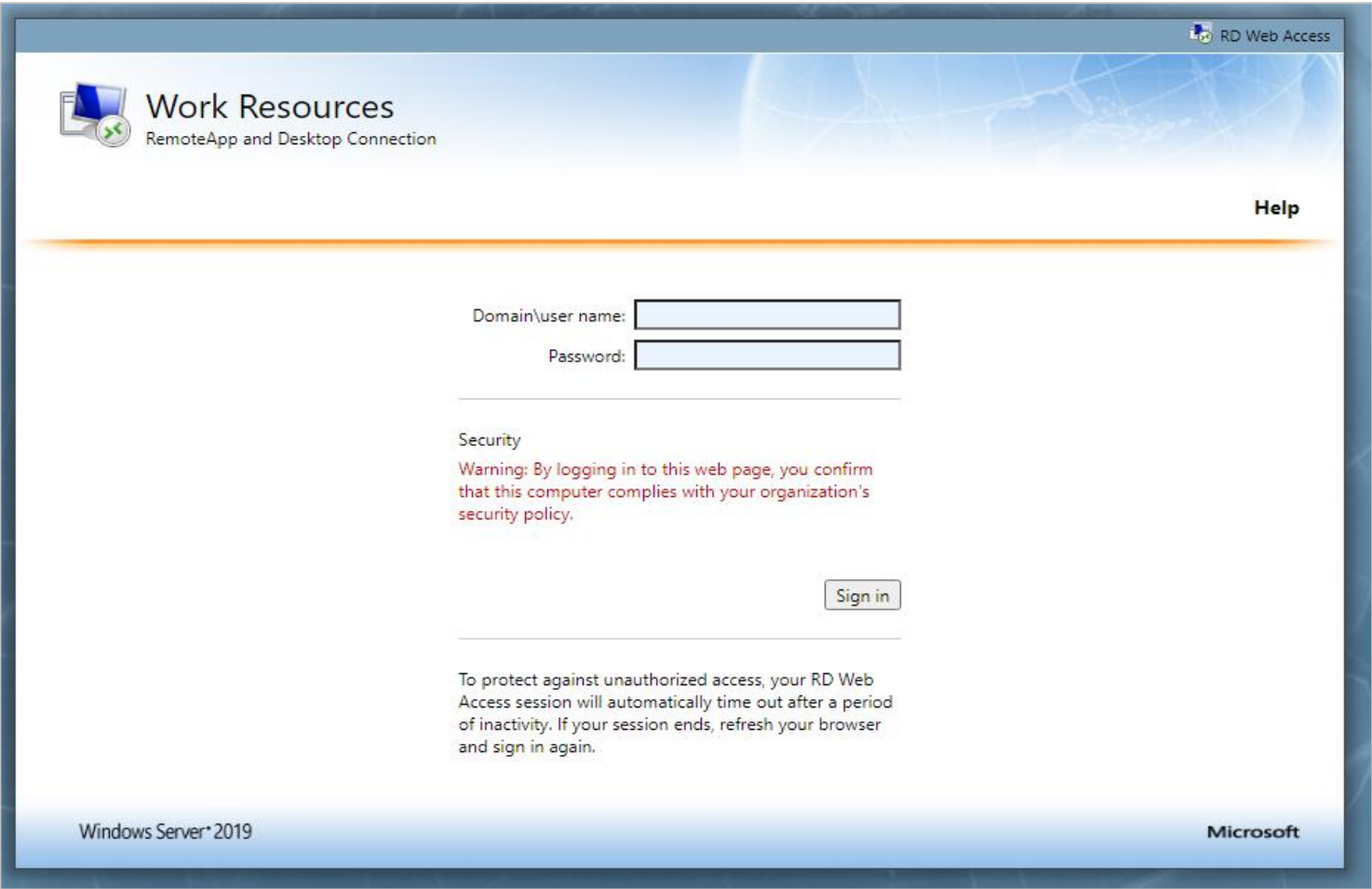


■仮想デスクトップにアクセス

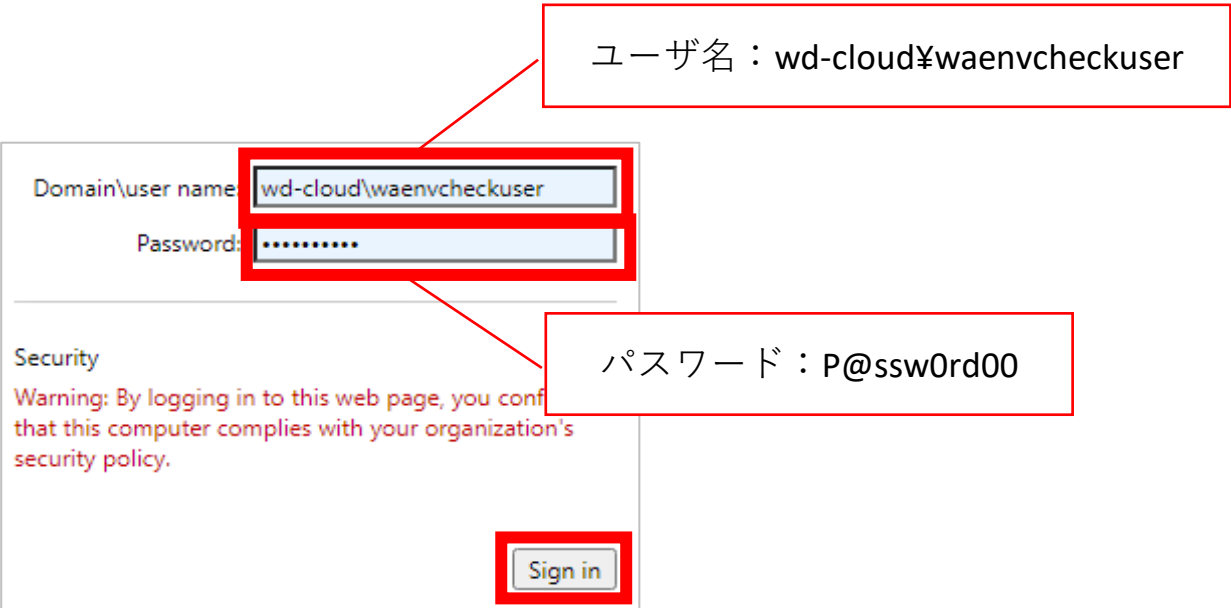
①ブラウザから接続先URLを入力し、以下画面を開いてください。※ブラウザはChrome、Edge、FireFoxをご使用ください。

URL： <https://wa-assay.jpaneast.cloudapp.azure.com/RDWeb/Pages/en-US/Default.aspx>

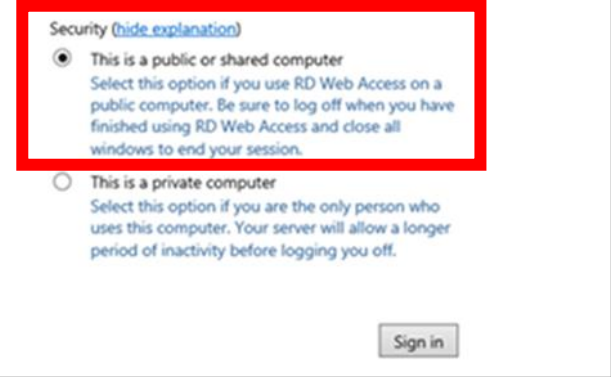
アドオンの許可ポップアップが表示された場合は「許可」を選択してください。



②ユーザ名とパスワードを入力→「Sign in」をクリックしてください。



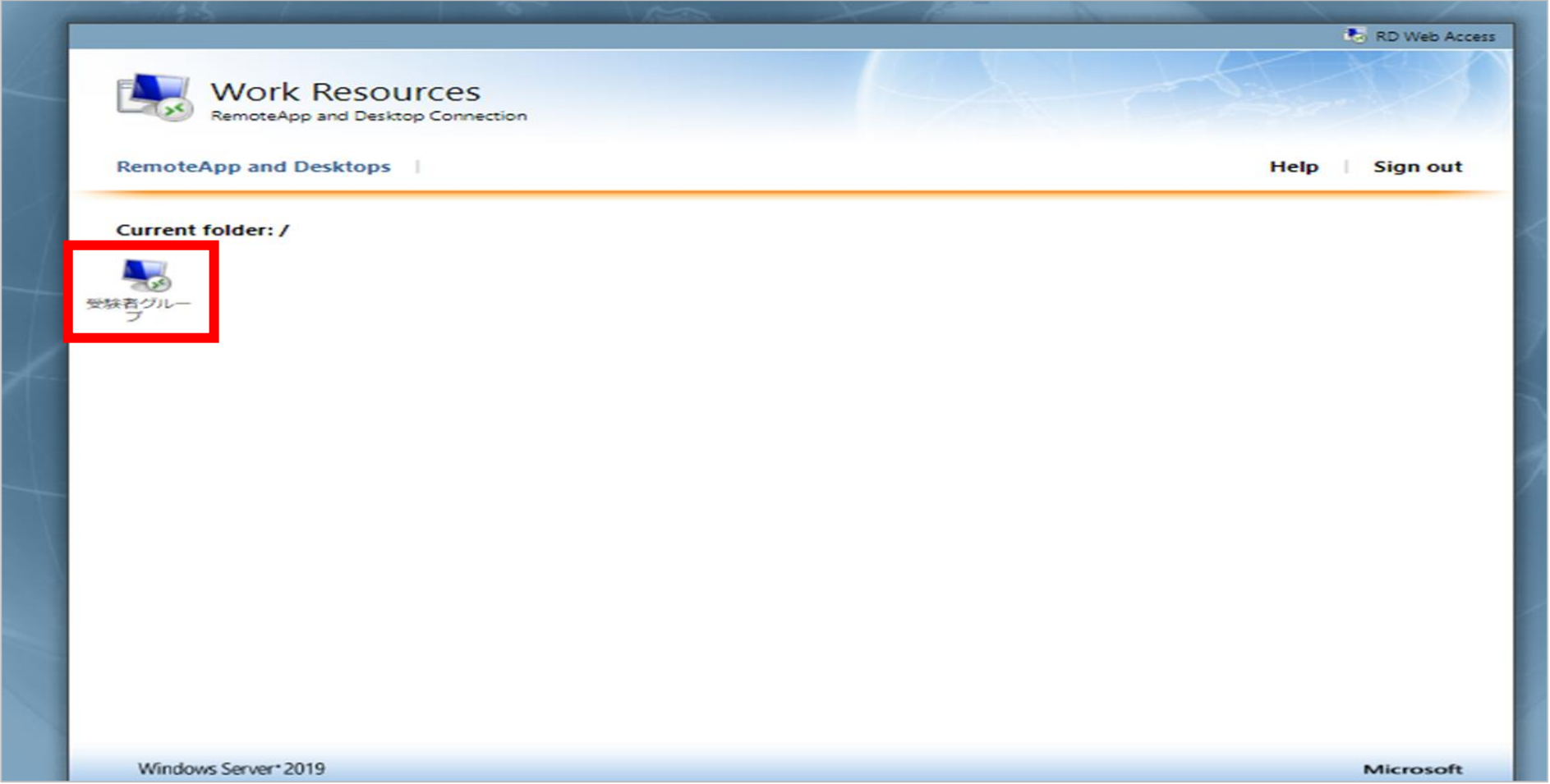
※SecurityでPublicかPrivateかを求められた場合はPublicを選択してください。



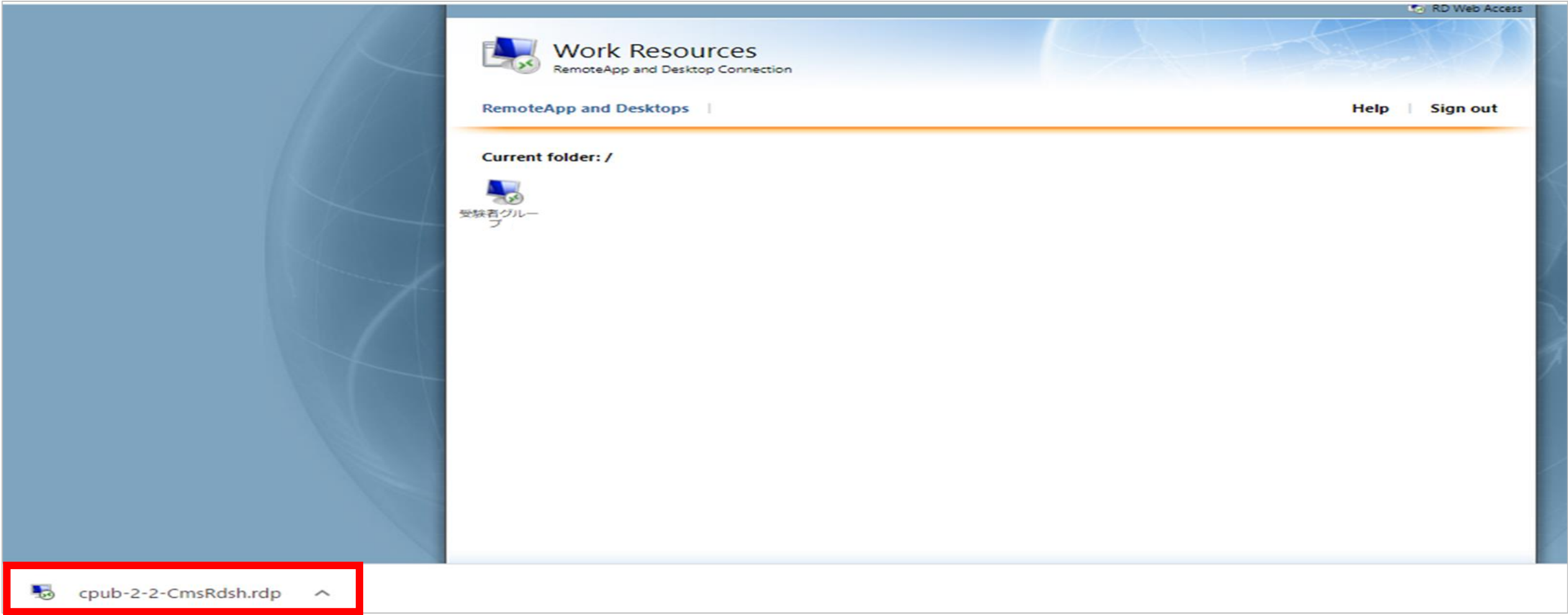
※Chromeの場合パスワード保存ポップアップで「保存しない」を選択してください。



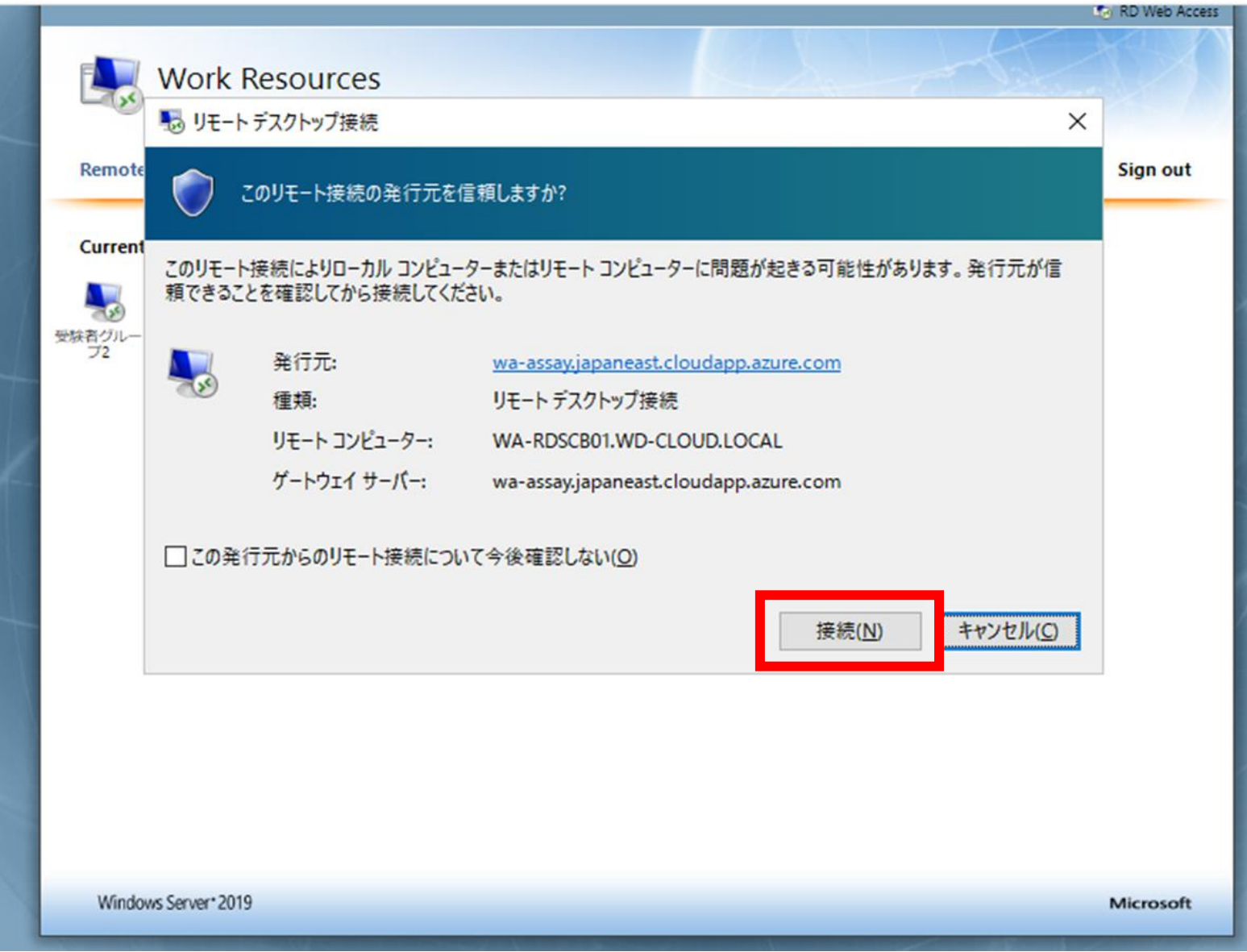
- ③表示されるグループ「受検者グループX」をクリックしてください。
※X部分はログインするユーザによって異なるものが表示されます。



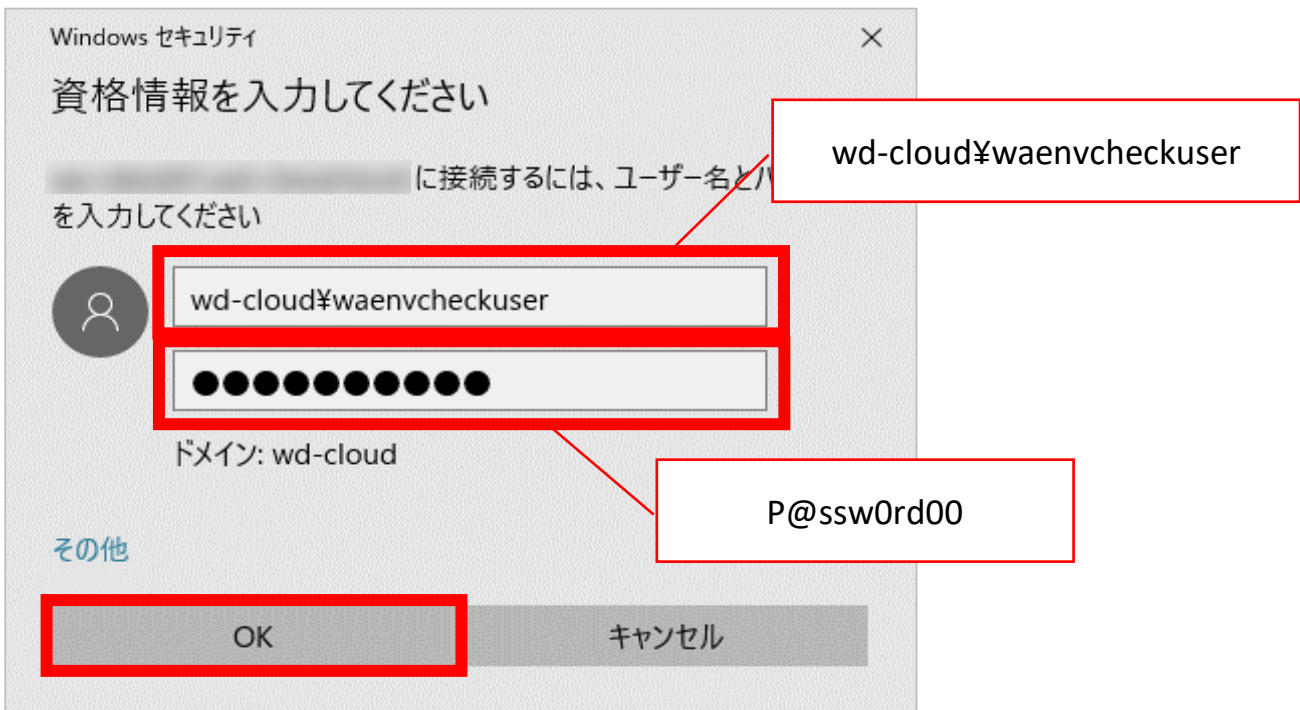
- ④RDPファイルをクリックして実行してください。



- ⑤RDP「リモートデスクトップ接続」画面が起動するため「接続」をクリックしてください。
※RDPクライアントソフトを使用しますがRDPのサービス自体は使用していないためポート3389は使用しません。

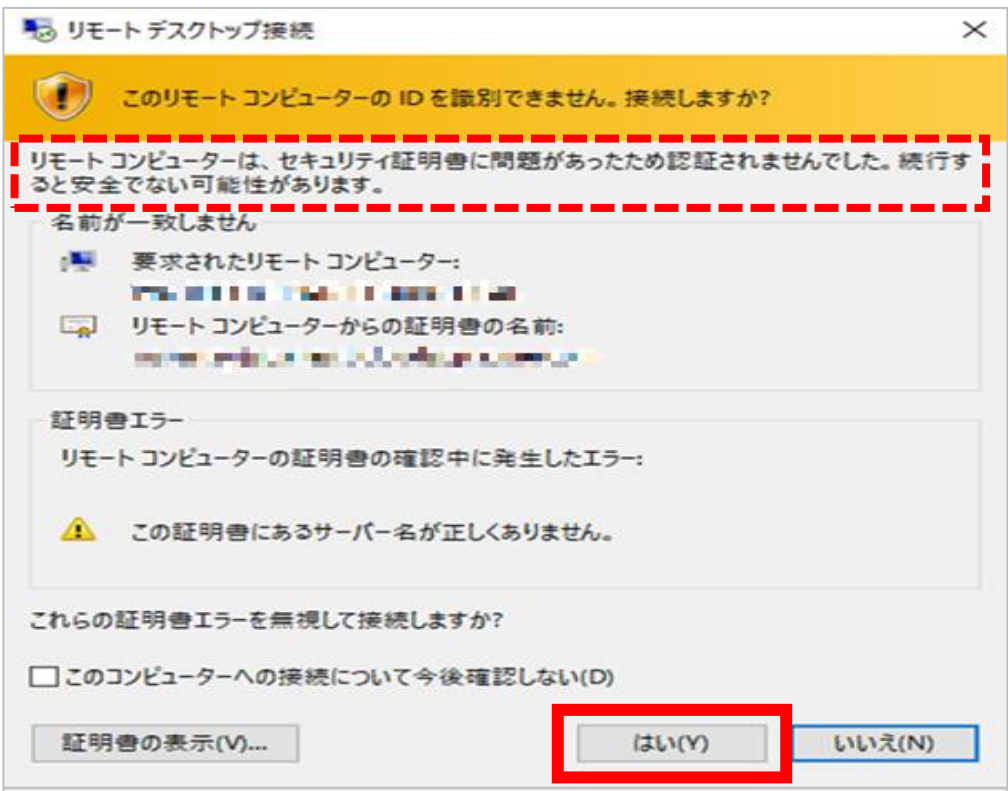


⑥資格情報にユーザー名とパスワードを入力→「OK」をクリックしてください。

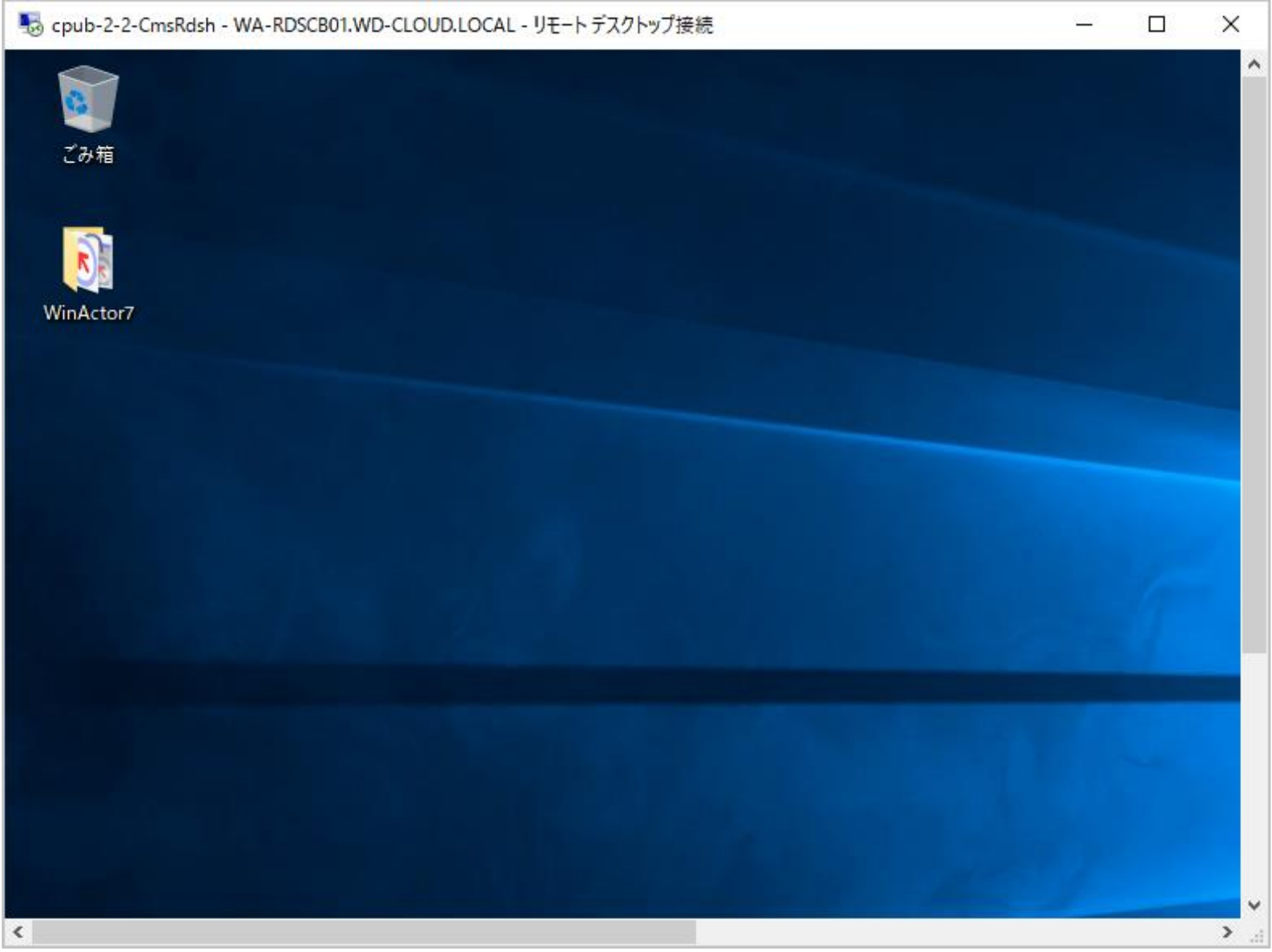


⑦接続確認画面で「はい」をクリックしてください。

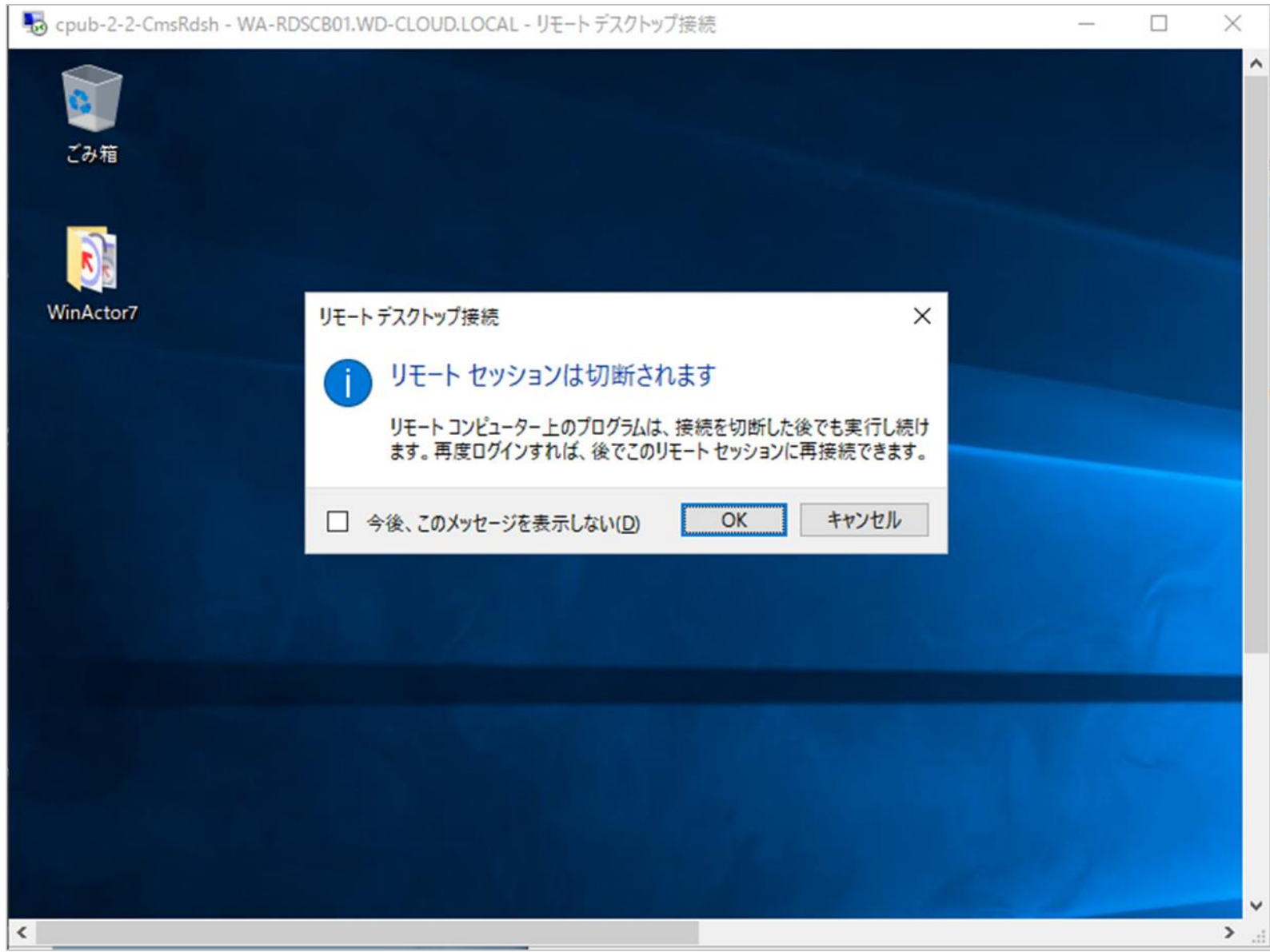
※公的な証明書ではなくNTTデータが作成している証明書を使用しているため
「リモートコンピュータは、セキュリティ証明書に問題があったため～」というメッセージが出るが問題ないため「はい」をクリックする。



- ⑧「はい」をクリックすると検定環境にログインします。
- ※デスクトップ画面表示後すぐに表示が切れてしまった場合は、他の方にセッションを奪われた可能性があります。少し時間を置いてから再度接続をお試しください。



- ⑨閉じる場合は、×ボタンかスタート→電源メニューの切断で試験マシンから抜けてください。
- 一時的に非表示にしたい場合、画面右上の「×」ボタンの二つ左にある「―」（最小化）ボタンを押してください。
- （画面右上にない場合は、画面中央上部にある青色台形のメニューバーの部分にあります。）



手順 2 – 1.テスト環境接続は以上です。

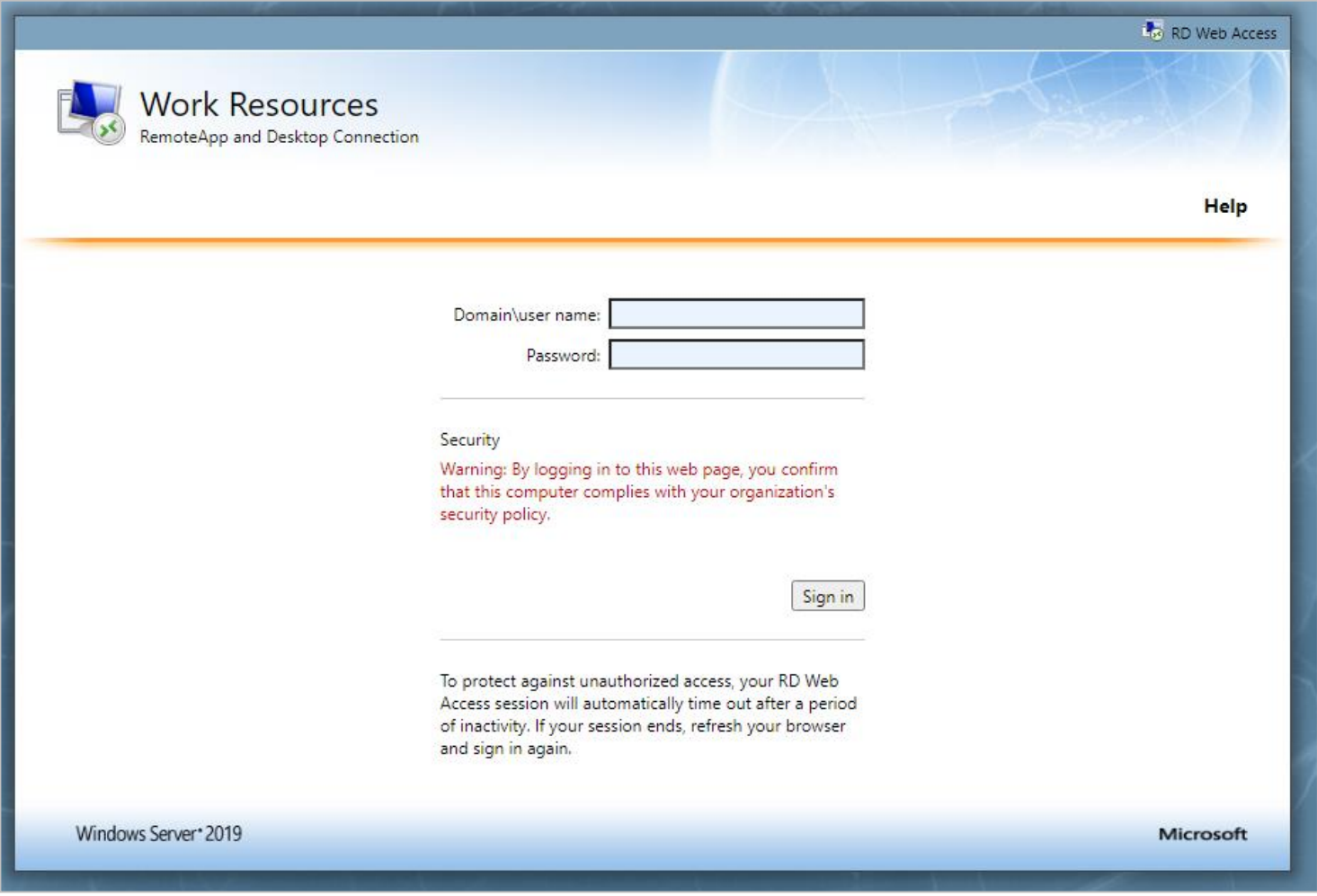
手順 2 – 2.本番環境接続（テスト接続済） **試験開始90分前～**

■仮想デスクトップにアクセス

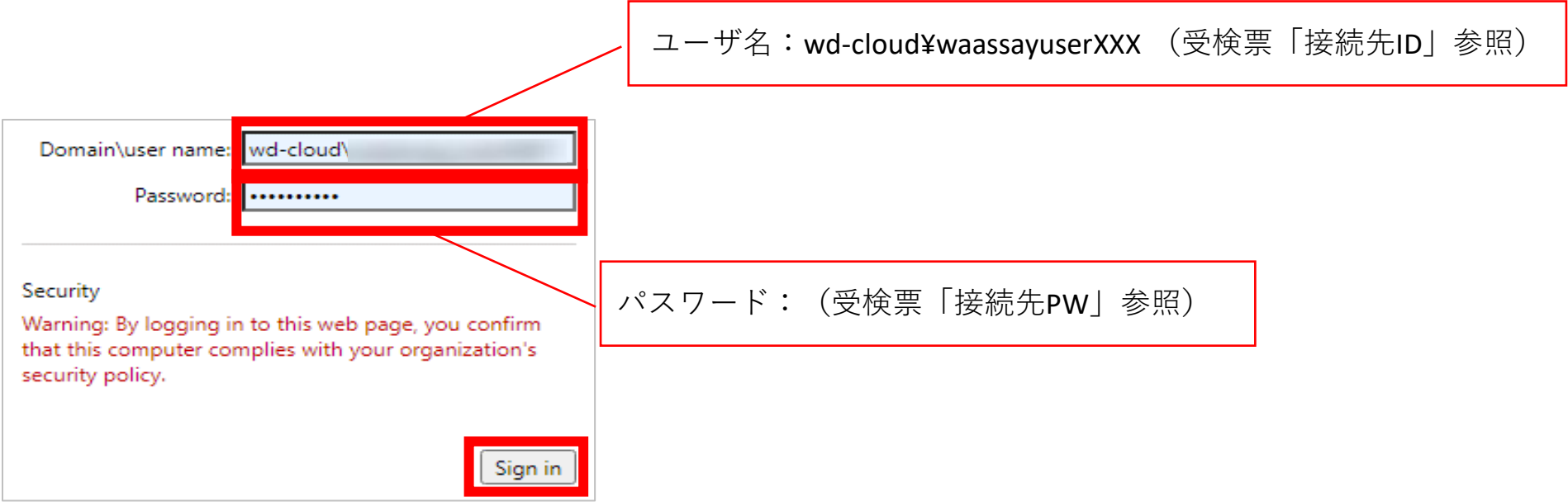
①ブラウザから接続先URLを入力し、以下画面を開いてください。※ブラウザはChrome、Edge、FireFoxをご使用ください。

URL： <https://wa-assay.japaneast.cloudapp.azure.com/RDWeb/Pages/en-US/Default.aspx>

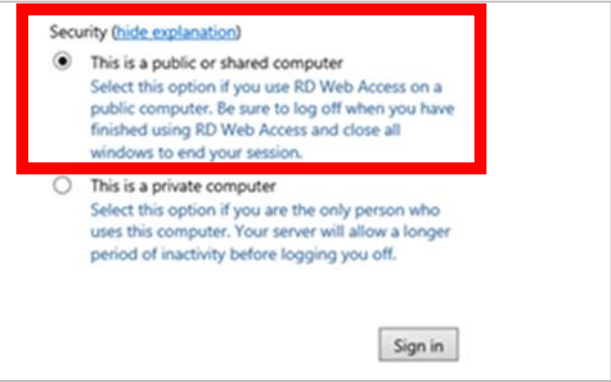
アドオンの許可ポップアップが表示された場合は「許可」を選択してください。



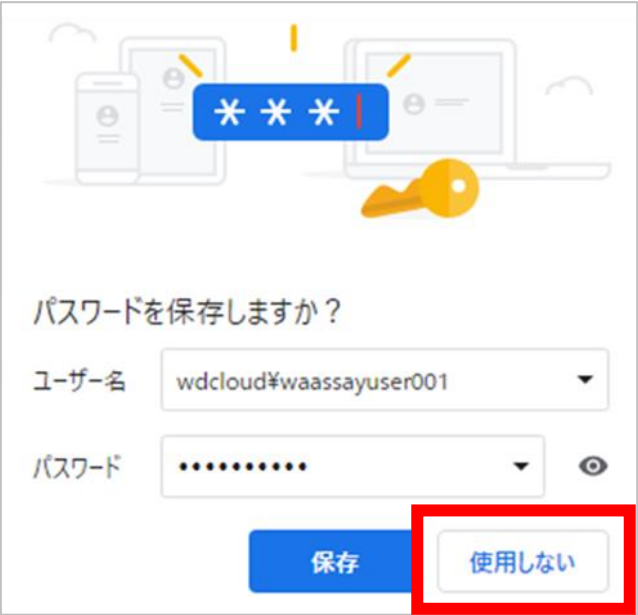
②ユーザ名とパスワードを入力→「Sign in」をクリックしてください。



※SecurityでPublicかPrivateかを求められた場合はPublicを選択してください。

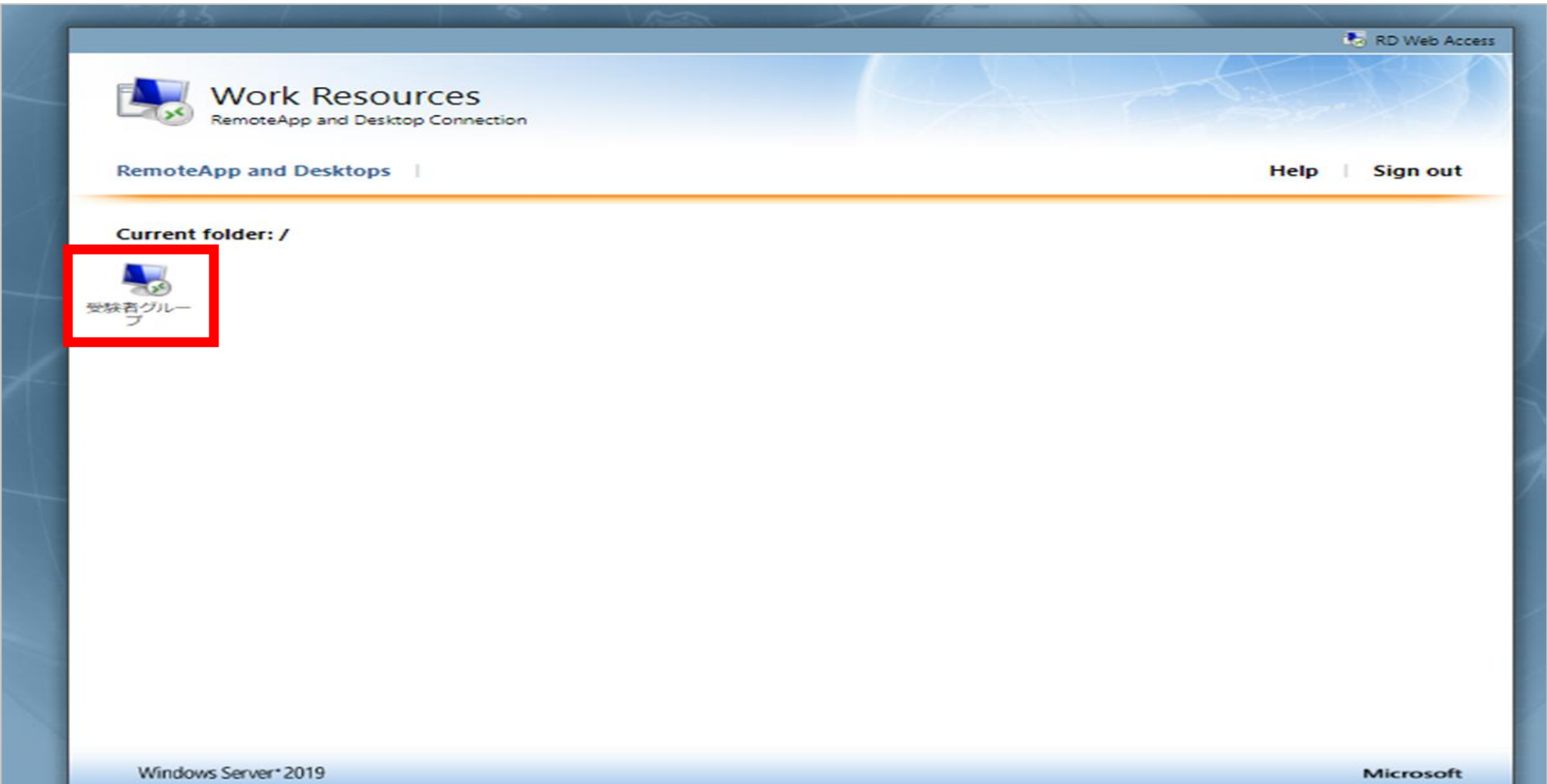


※Chromeの場合パスワード保存ポップアップで「保存しない」を選択してください。

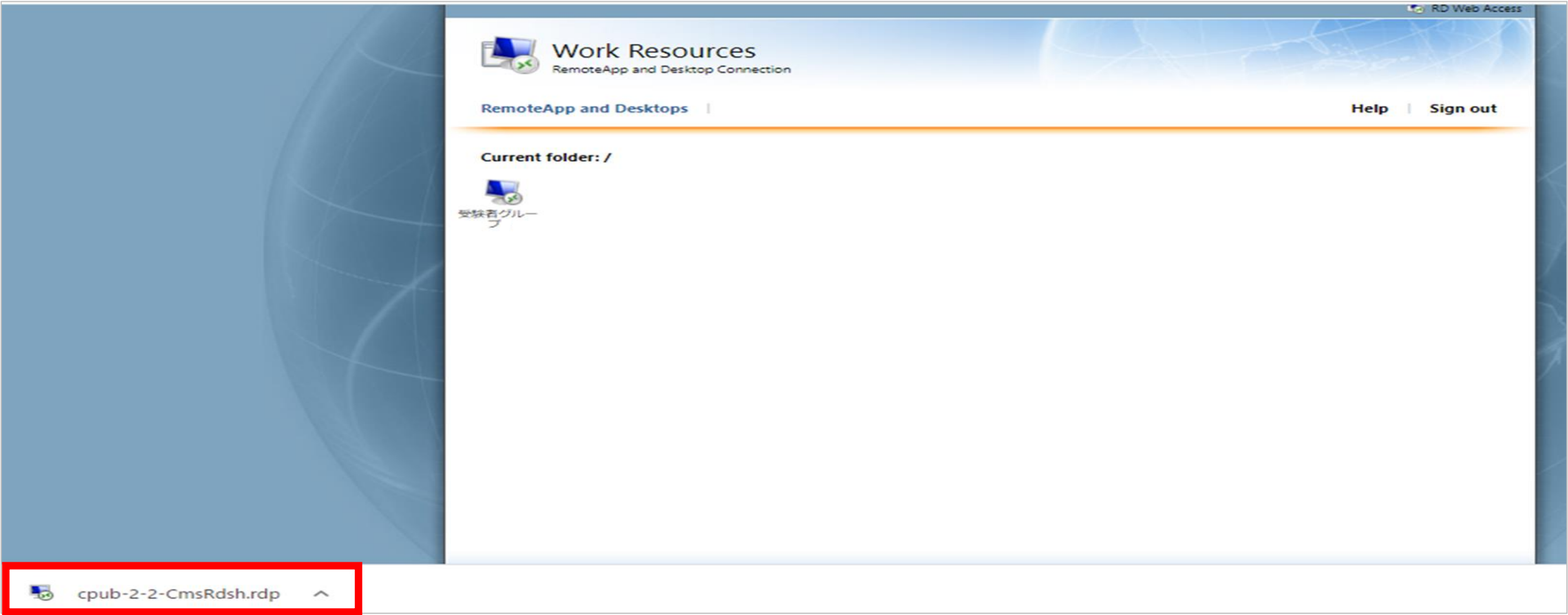


③表示されるグループ「受検者グループX」をクリックしてください。

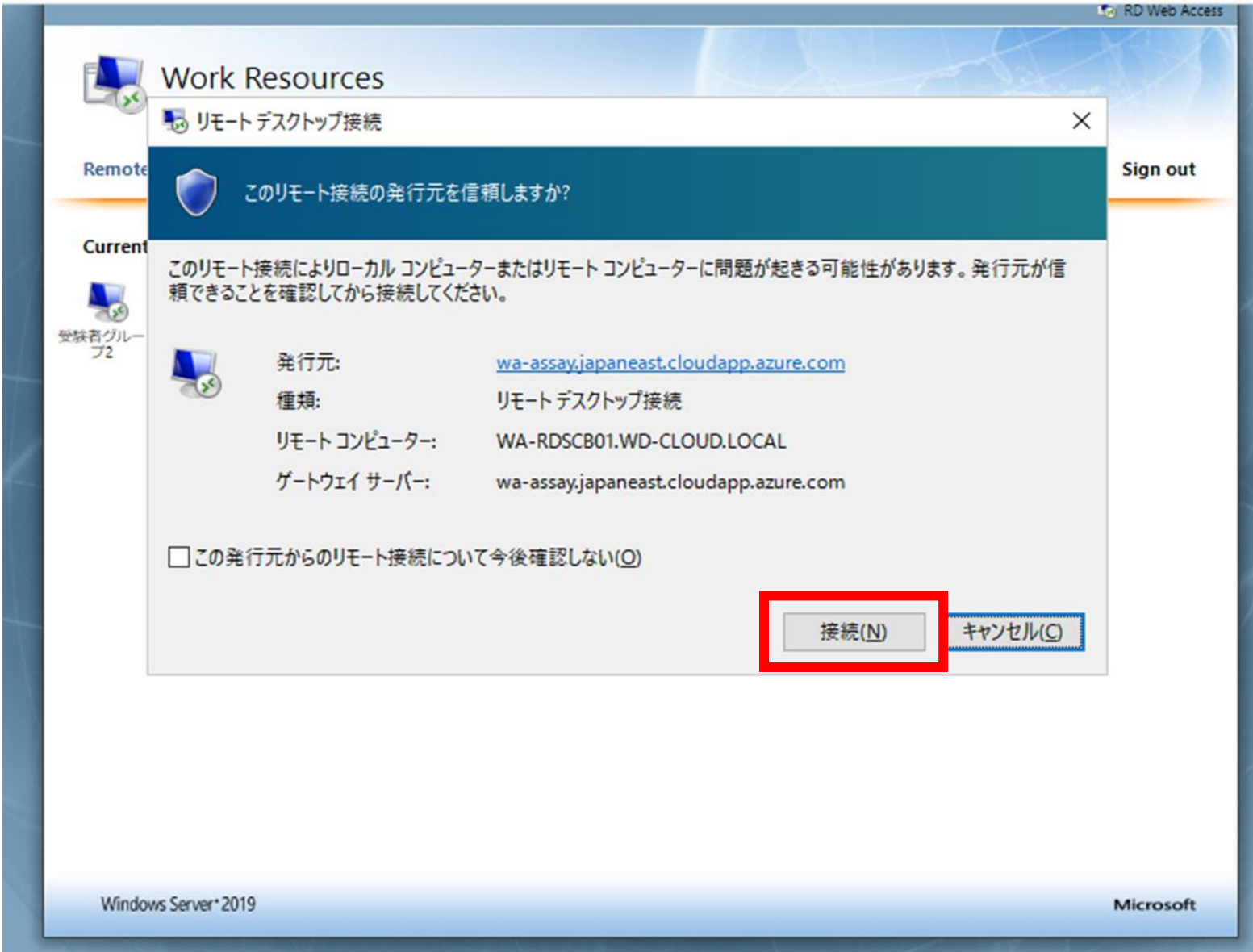
X部分はログインするユーザによって異なるものが表示されます。



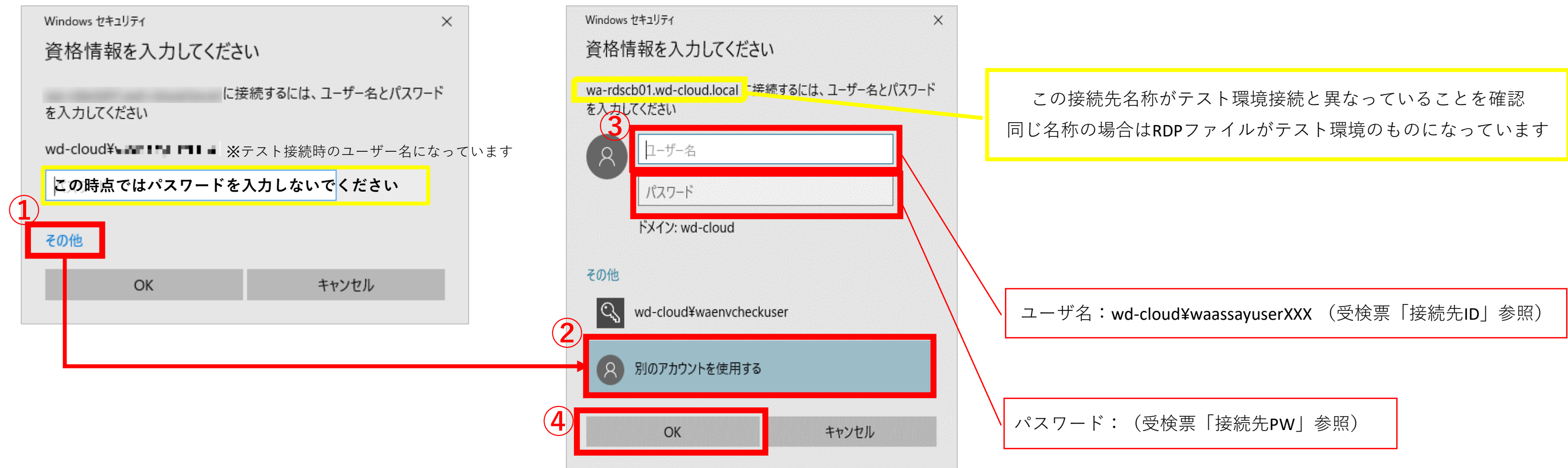
④RDPファイルをクリックして実行してください。



⑤RDP「リモートデスクトップ接続」画面が起動するため「接続」をクリックしてください。
※RDPクライアントソフトを使用しますがRDPのサービス自体は使用していないためポート3389は使用しません。

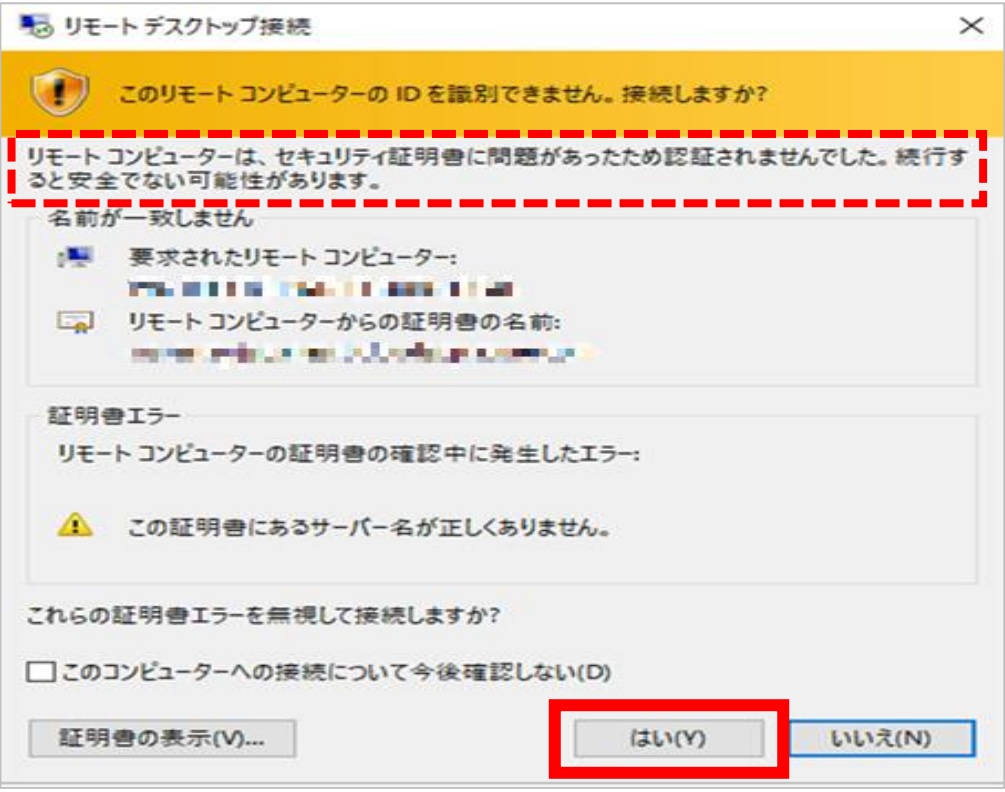


⑥「その他」をクリック→「別のアカウントを使用する」をクリック→ユーザー名とパスワードを入力→「OK」をクリックしてください。



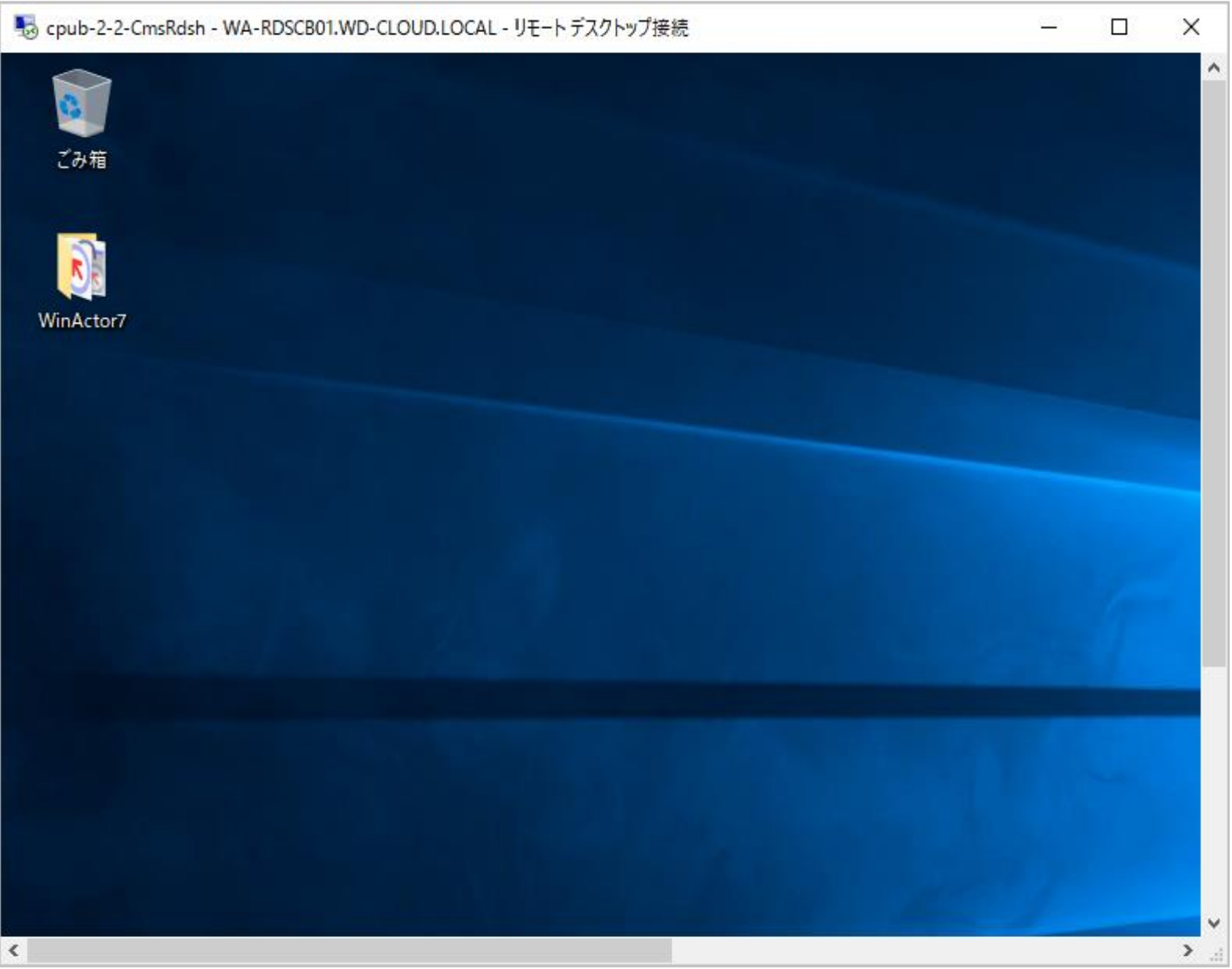
⑦接続確認画面で「はい」をクリックしてください。

公的な証明書ではなくNTTデータが作成している証明書を使用しているため
「リモートコンピュータは、セキュリティ証明書に問題があったため～」というメッセージが出るが問題ないため「はい」をクリックする。



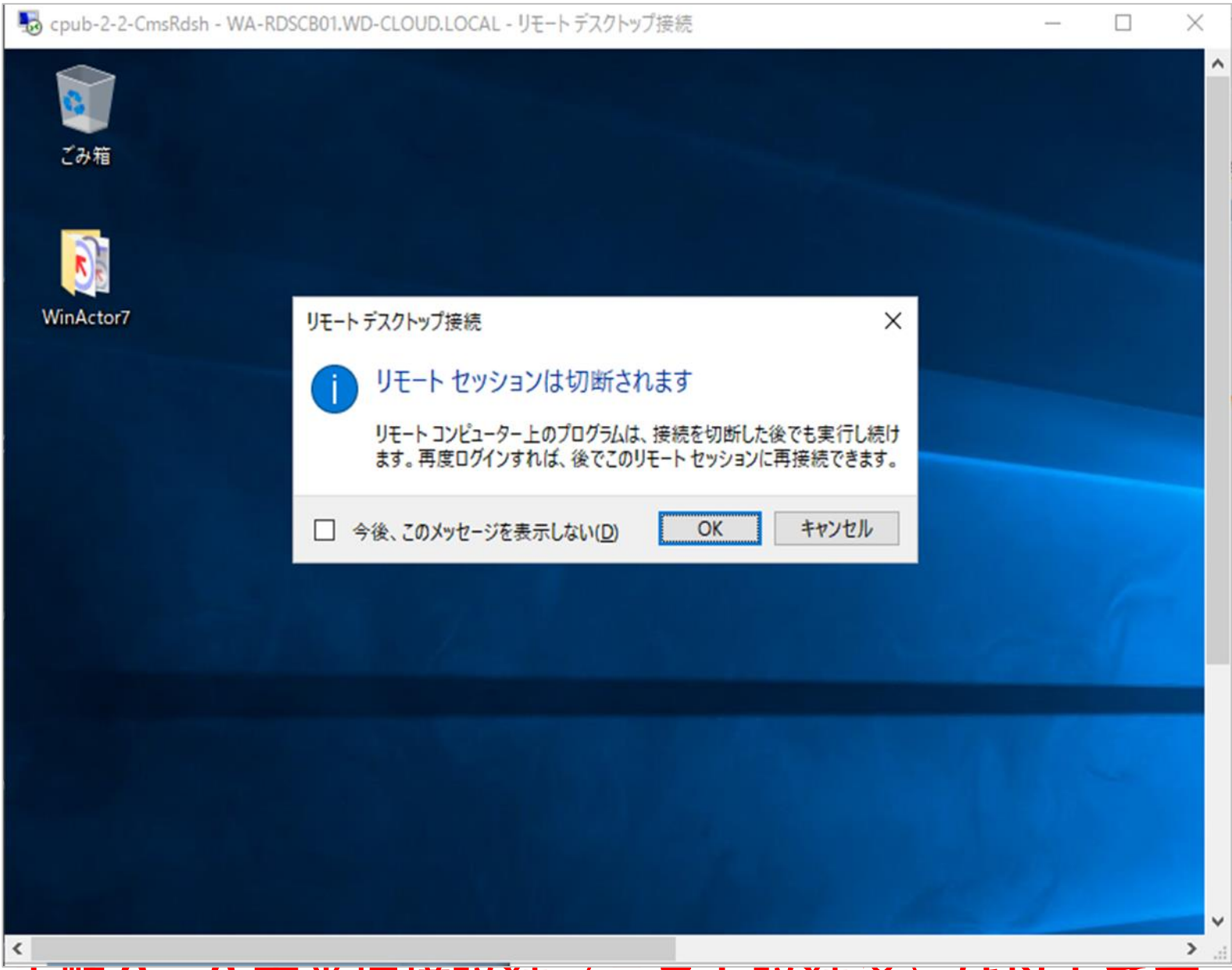
⑧「はい」をクリックすると検定環境にログインします。

デスクトップ画面表示後すぐに表示が切れてしまった場合は、他の方にセッションを奪われた可能性があります。少し時間を置いてから再度接続をお試しください。



⑨閉じる場合は、×ボタンかスタート→電源メニューの切断で試験マシンから抜けてください。

一時的に非表示にしたい場合、画面右上の「×」ボタンの二つ左にある「ー」（最小化）ボタンを押してください。
(画面右上にない場合は、画面中央上部にある青色台形ののメニューバーの部分にあります。)



手順 2-2.本番環境接続（テスト接続済）は以上です。

手順 2 – 3.本番環境接続（テスト接続未）

■証明書のインポート

①サーバ証明書ファイルをダブルクリック→「証明書のインストール」をクリック

サーバ証明書：wa-assay.jpaneast.cloudapp.azure.com.cer



②保存場所を選択してください。

「ローカルコンピュータ」にチェック→「次へ」をクリック



③証明書配置先を選択してください。

「証明書をすべて次のストアに配置する」にチェック→「参照」をクリック→証明書ストア：「信頼されたルート証明機関」を選択→「OK」をクリック

← 証明書のインポートウィザード

証明書ストア

証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。

Windows に証明書ストアを自動的に選択させるか、証明書の場所を指定することができます。

☐ 証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する(U)

☒ 証明書をすべて次のストアに配置する(P)

証明書ストア:

参照(R)...

証明書ストアの選択

使用する証明書ストアを選択してください(C)

信頼されたルート証明機関

物理ストアを表示する(S)

OK

キャンセル

次へ(N)

キャンセル

「次へ」をクリックでインストールを実施してください。

←

証明書

証明書のインポートウィザード

×

証明書ストア

証明書ストアは、証明書が保管されるシステム上の領域です。

Windows に証明書ストアを自動的に選択させるが、証明書の場所を指定することができます。

☐ 証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する(U)

☒ 証明書をすべて次のストアに配置する(P)

証明書ストア:

信頼されたルート証明機関

参照(R)...

次へ(N) >

キャンセル

④証明書をインポートしてください。

「完了」をクリック→「正しくインポートされました。」が表示されればOKです。

← 証明書のインポートウィザード

証明書のインポートウィザードの完了

[完了] をクリックすると、証明書がインポートされます。

次の設定が指定されました:

ユーザーが選択した証明書ストア	信頼されたルート証明機関
内容	証明書

完了(F) キャンセル

証明書のインポートウィザード

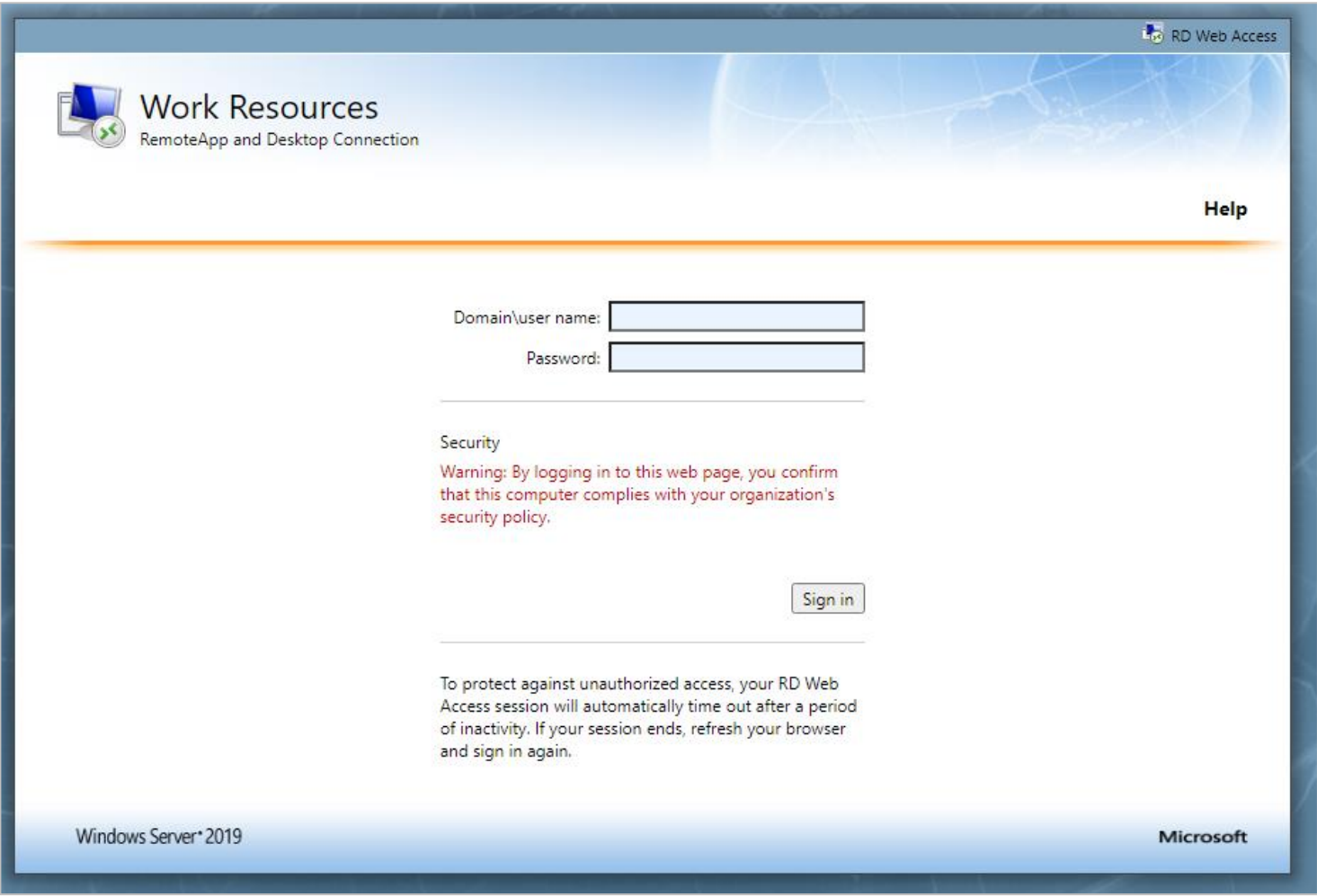
正しくインポートされました。

OK

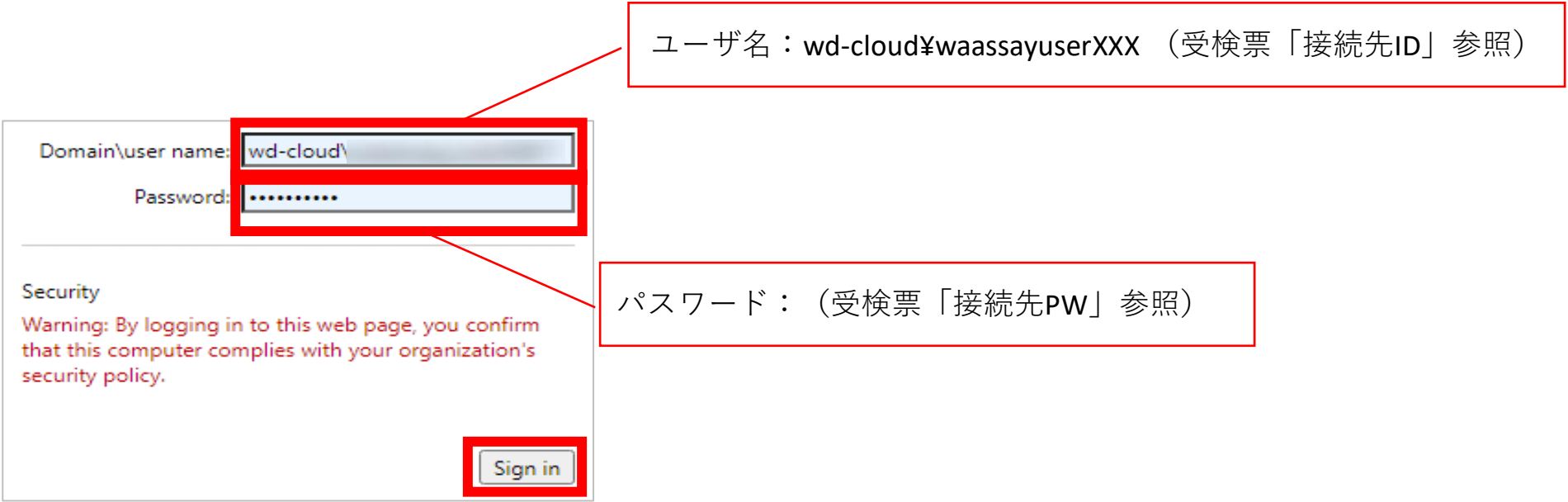
■仮想デスクトップにアクセス

①ブラウザから接続先URLを入力し、以下画面を開いてください。※ブラウザはChrome、Edge、FireFoxをご使用ください。

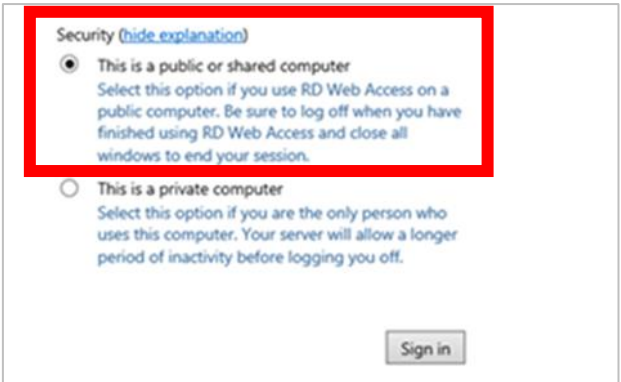
URL： <https://wa-assay.jpaneast.cloudapp.azure.com/RDWeb/Pages/en-US/Default.aspx>
アドオンの許可ポップアップが表示された場合は「許可」を選択してください。



②ユーザ名とパスワードを入力→「Sign in」をクリックしてください。



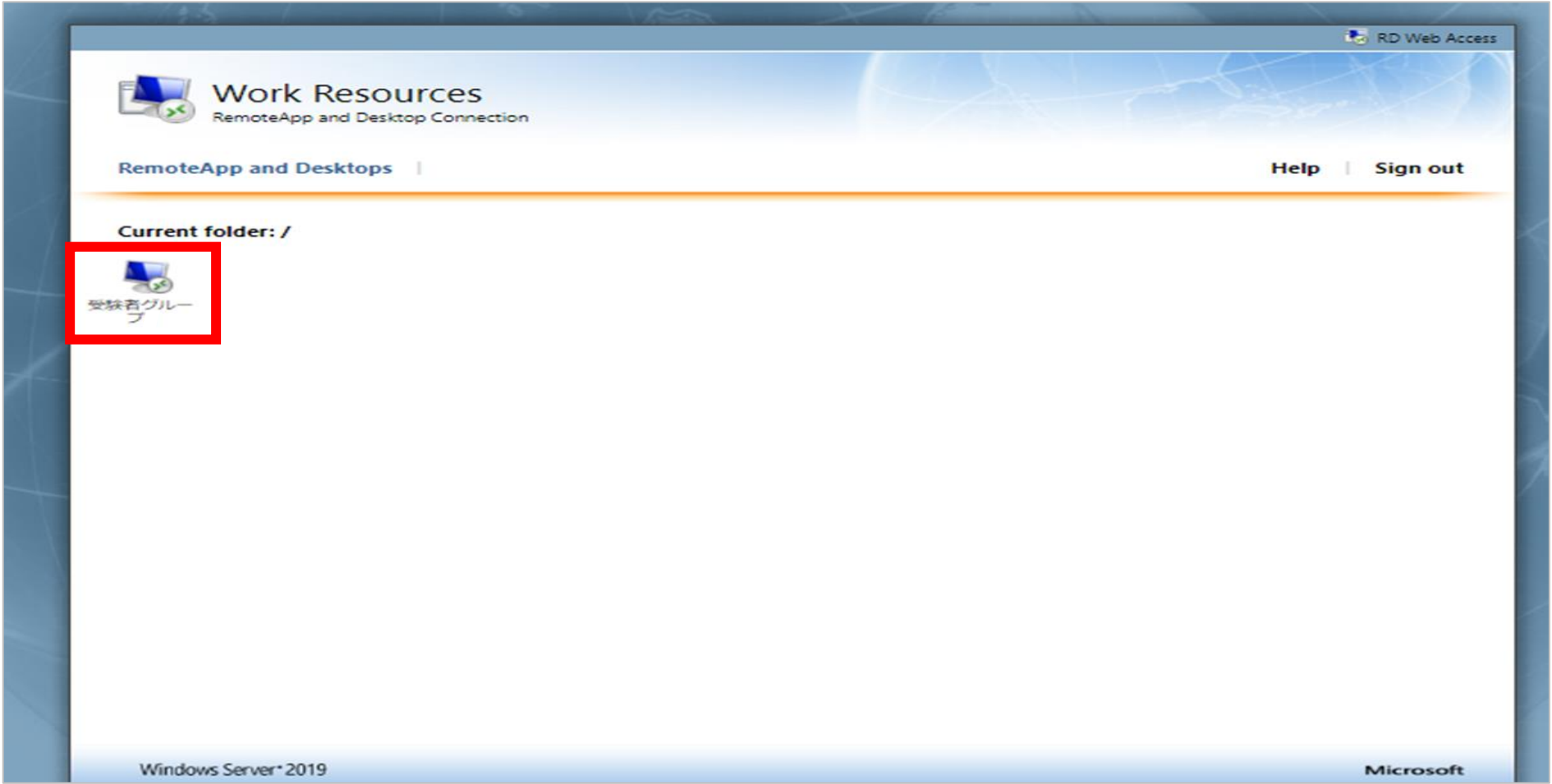
※SecurityでPublicかPrivateかを求められた場合はPublicを選択してください。



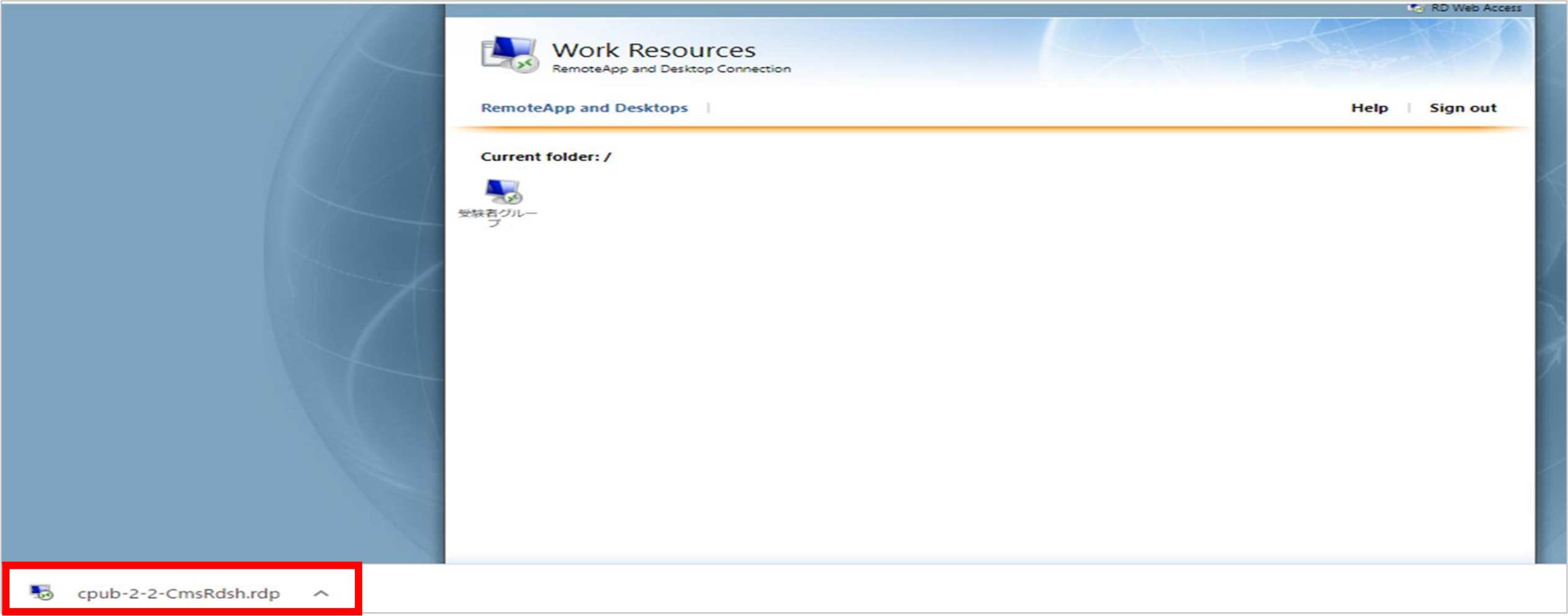
※Chromeの場合パスワード保存ポップアップで「保存しない」を選択してください。



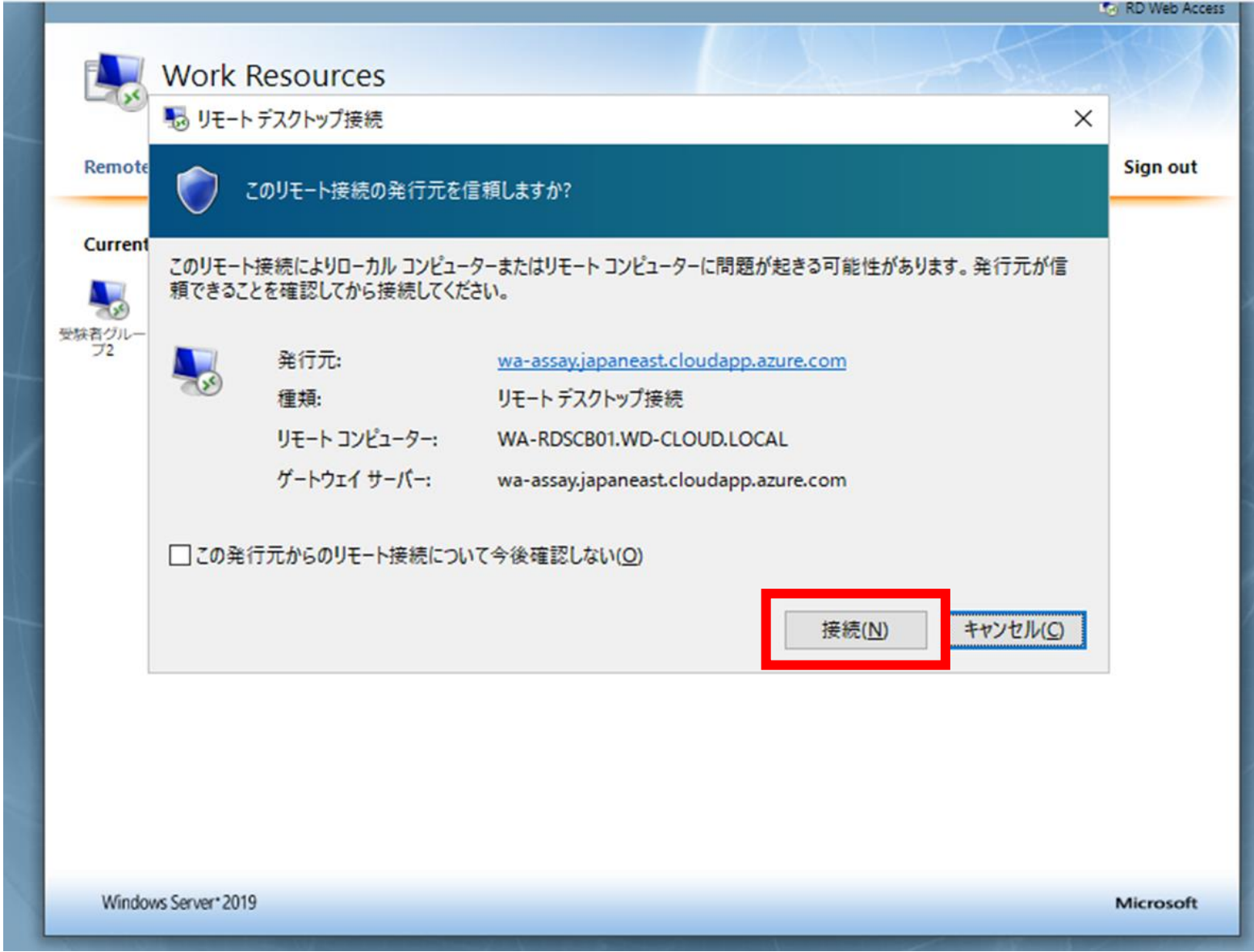
③表示されるグループ「受検者グループX」をクリックしてください。
X部分はログインするユーザによって異なるものが表示されます。



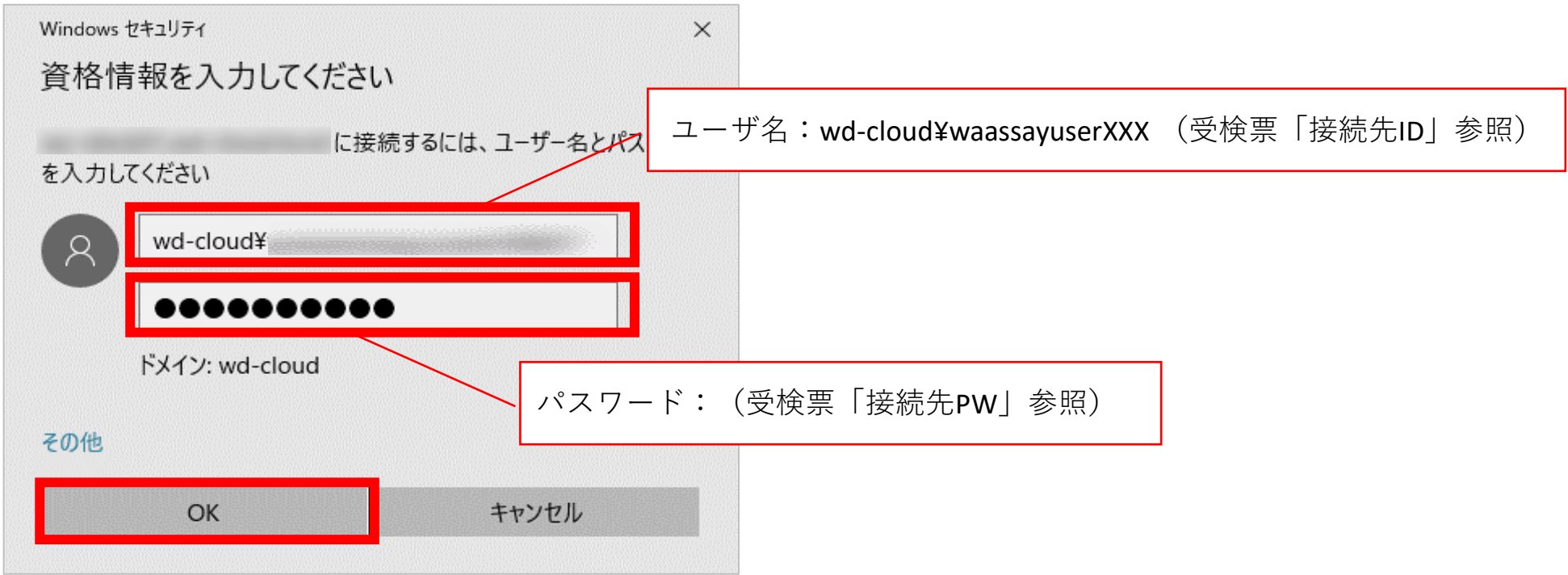
④RDPファイルをクリックして実行してください。



⑤RDP「リモートデスクトップ接続」画面が起動するため「接続」をクリックしてください。
※RDPクライアントソフトを使用しますがRDPのサービス自体は使用していないためポート3389は使用しません。

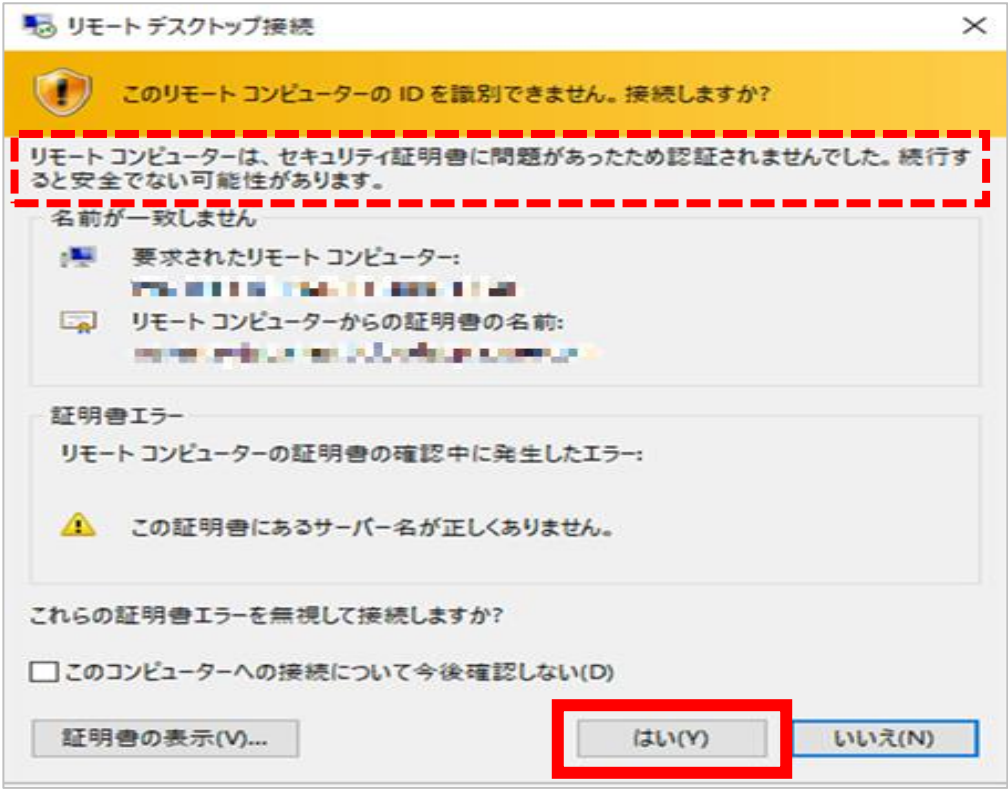


⑥資格情報にユーザー名とパスワードを入力→「OK」をクリックしてください。



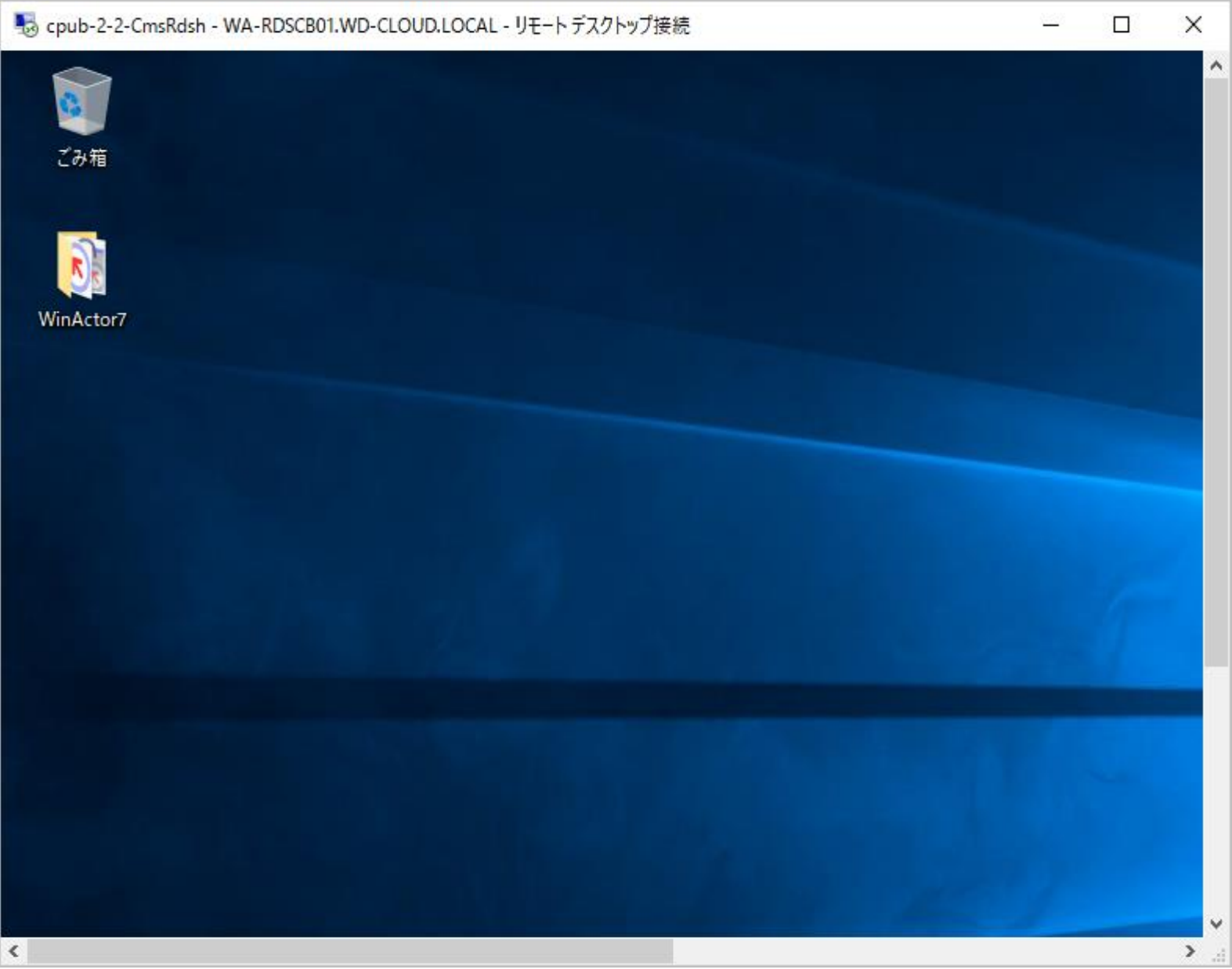
⑦接続確認画面で「はい」をクリックしてください。

公的な証明書ではなくNTTデータが作成している証明書を使用しているため
「リモートコンピュータは、セキュリティ証明書に問題があったため～」というメッセージが出るが問題ないため「はい」をクリックする。



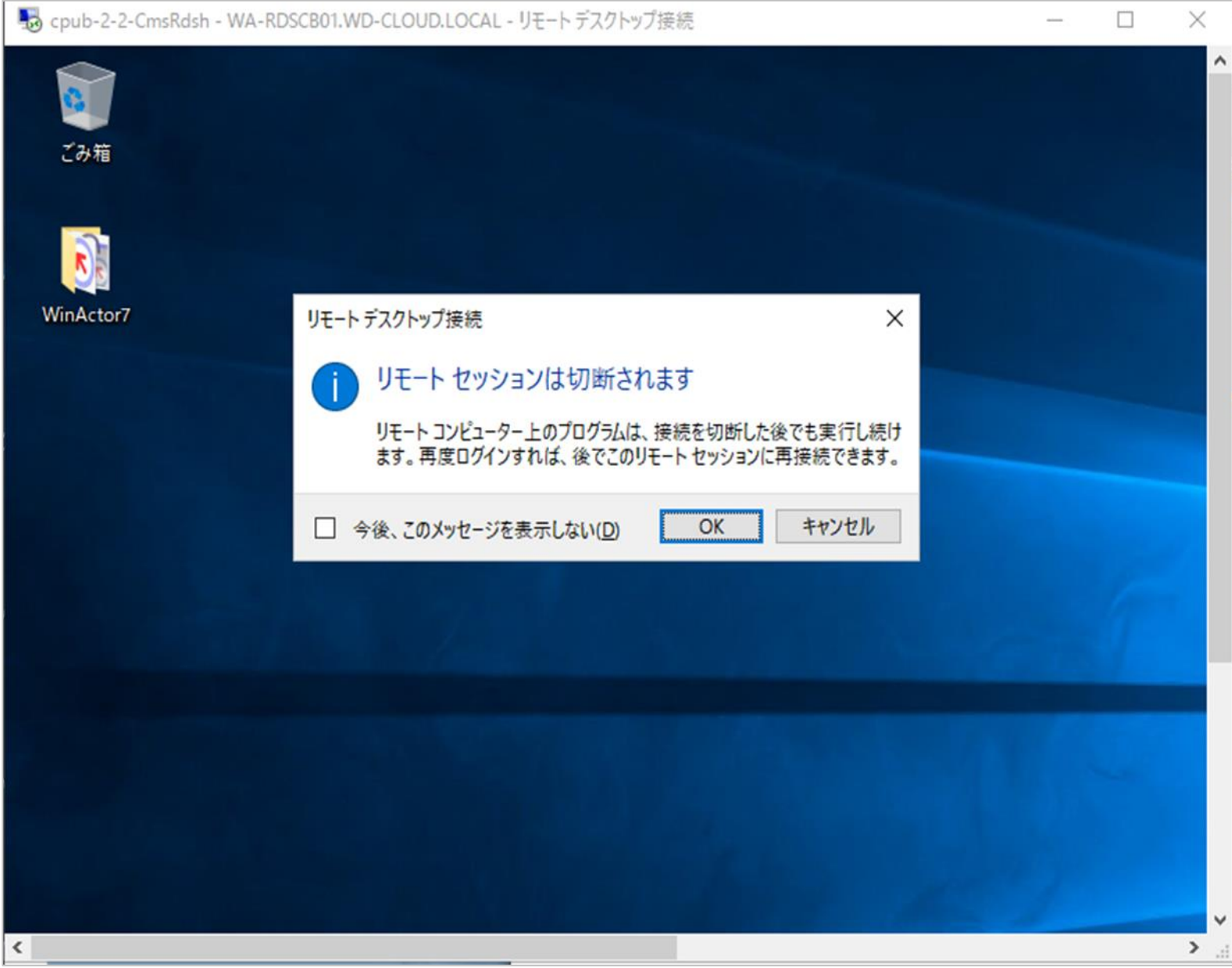
⑧「はい」をクリックすると検定環境にログインします。

デスクトップ画面表示後すぐに表示が切れてしまった場合は、他の方にセッションを奪われた可能性があります。少し時間を置いてから再度接続をお試しください。



⑨閉じる場合は、×ボタンかスタート→電源メニューの切断で試験マシンから抜けてください。

一時的に非表示にしたい場合、画面右上の「×」ボタンの二つ左にある「ー」（最小化）ボタンを押してください。
(画面右上にない場合は、画面中央上部にある青色台形ののメニューバーの部分にあります。)



手順 2 – 3.本番環境接続（テスト接続未実施）は以上です。